

旧赤星鉄馬邸の当初仕様および現在の残存・改変状況について

1. 旧赤星鉄馬邸の設計思想について

■「アントニン・レーモンド自伝」にみられる旧赤星鉄馬邸の設計思想

「この三つ（注：赤星鉄馬邸、川崎守之助邸、福井菊三郎邸）の場合、デザインの問題点はいずれも本人の二重生活に必要な、入念な配置計画を作り上げることであった。客と、家族と、使用人のための分かれた玄関。その家に親しくない人を入れるための、異なった種類の応接間。管理人ためには場所や、その事務室など。和洋両設備の厨房。伝統的日本間と同様に、畳のある様式の部屋など。」

「どの住宅も鉄筋コンクリート造で打放し、耐震耐火。空気調和設備は当時はなかった。湿っぽい雨季や、熱帯性の暑い夏の、壁の結露を除くため、全建物は壁を二重にした。どの部屋も南を解放し、最大の窓口をとり、換気をはかった。南と西の窓口には底をつけて、夏の太陽から守ったが、低い冬の太陽をとりいれるように計算した。二重生活の組み合わせは造園にも及んだ。造園には西洋式の部分と、純粋な日本式の部分とがあった。」

「三つの住宅のためにノエミと私は、庭園も家具も、じゅうたんも、テキスタイルも、電気器具もデザインした。簡単にいえば、仕事に付随するもの全部であった。ただか三つとも今までどこでも成功したことのない、ごく稀な等質性と、統一性が与えられたのである。」

建築家として働く場合、我々が位置の計画をする時に先ず土地の研究をやる。そして日本住宅は庭と不可分のものであるがゆえに、家と庭とは同時に計画を進める。川崎家の平面に於ては我々は此の自然との接触を十二分に考究し、大きな居間は太陽の輝く庭と中庭の間に挟まれている。

- 施主の西洋式・日本式双方の様式を取り入れた生活（二重生活）に合わせた設計
- 鉄筋コンクリート造打ち放しの実践
- 外部空間（庭）と家との関係を重視した設計
- 建物だけでなく住居に関するものすべてのデザイン

■「アントニン・レーモンド作品集 1920-1935」掲載「日本建築に就いて」にみられる日本文化・日本建築に対するレーモンドの考え方

西欧の建築家があれ程苦闘する「形」「機能」「材料」の問題も日本建築にあつてはいたともたやすく解決され、形は全的にその目的に応ずる。日本建築は「自然」の進化に似る。凡ゆる観点に於てそれは内面的欲求に因縁をもち、その内面的要求に対しては全人生の真の価値の深き理解に基いた表現的な同時に実用的な正確適確な解決を見出している。

日本人のそれに比ぶれば我々の自然愛は余りに浅薄である。「自然」に対する帰依は日本伝統の美德であり彼等は常に自然より誤りなき「啓示」をうけて来たのである。

反対に日本家に入る人の心を先ずうつものはその無装飾であり、同時に「必然」の昇華せる装飾の効果である

（略）

幾何学的な線と自然の相との交錯のみが深く日本人の胸をうつのだ。

日本文化程「単純化」と「淘汰」につきつめられた切実な美を有つ文化が地球の何処に存在しているだろうか？

- 自然と不可分の暮らしや考え方
- 「単純化」と「淘汰」による美を持つ文化

■「建築」1961年10月号にみられる日本文化・日本建築に対するレーモンドの考え方と設計思想

私は日本の建築が現に目の前にあることを感謝するとともに、日本の建築のなかには、何か絶対的な理念といったようなものがあることを悟りました。

(略)

この理念を簡素なことばで表現するとすれば、こんな風になると思います。すなわち、「最も簡潔にして直截、機能的にして経済的、かつ自然なるもののみが真に完き美を有する」と。これを実現する手がかりは、まず、内から外へ向かう設計態度を確立することであって、外から内へ向かったのでは、決してこういう美しさは生まれてこないのです。

- 「戦後にあってレーモンドは、建築の原理を新たに求め『単純、直截、正直、自然、経済性』の5つとした。所員はそれらを実践するための原則として受け入れ、モダニズム建築の範囲の拡大が始まっていた。」A・レーモンドのモダニズム：その設計作法 三沢浩

上記のようにレーモンドの5原則は一般的に知られているが、レーモンドによる著書やインタビュー等では見つからなかった。

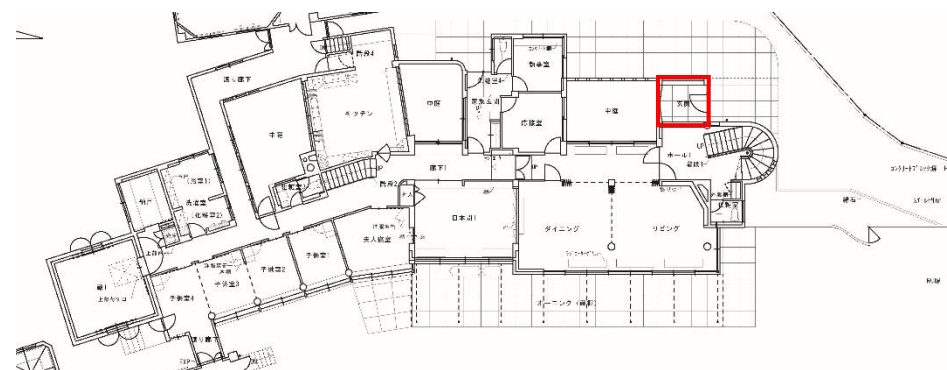
2. 竣工時の仕上げについて

- 設計図には仕上げ表がないが、図面に記入があるものや現況などを照合して推定する。
- ・建築雑誌や書籍等に掲載された、竣工時や直後の古写真や仕様
 - ・当初仕上げの上に塗装や布張り、ボード張りなどがされた箇所を手剥がし・洗浄によって確認する。
- 設計図、写真、記述の比較や工事記録から、各時代の改変を明らかにし、より詳しい年代は、修道女会へのヒアリングによって明らかにしていく。

【設計の考え方・当初仕上げの主な参考資料】

- ・設計図面（レーモンド事務所提供）
- ・「アントニン・レーモンド建築詳細図譜 復刻版」鹿島出版会, 2014（次頁以降ではアントニン・レーモンド詳細図譜）
- ・K. NAKAMURA 編「アントニン・レイモンド作品集 1920-1935」（次頁以降では「アントニン・レーモンド作品集」）城南書院, 昭和10年
- ・「Architectural Record vol. 79」McGraw Hill Publications Company, 1936.1（次頁以降では「Architectural record」）
- ・「新建築 1935年7月 -- 復刻版. -- 1巻1号（[大14.8]）-20巻10号（[昭19.12]）」（次頁以降では「新建築」）不二出版, 2007
- ・「SD 第286号・7月号【特集】昭和初期モダニズム」鹿島出版会, 昭和63年（次頁以降では「SD」）
- ・アントニン・レーモンド（三沢浩訳）「自伝アントニン・レーモンド 新装版」（次頁以降では「アントニン・レーモンド自伝」）鹿島出版会, 2007

■1階 玄関



○設計意図

【レーモンドが考える日本の玄関】

召使いは何人もいて、昔のヨーロッパのように家族の一員と考えられている。女主人は召使いとともに働き、富裕な家では忠実な執事がうちの出来事を始末する。執事は主人の送り迎え、金銭の出入を管理する。彼は出来るたでさまざまな出入口の近くに、自分の部屋がなくてはならない。客用の入口は表玄関であり、時には主人専用の特別の玄関もある。

（レーモンド自伝より）

【旧赤星鉄馬邸における玄関の考え方】

この三つ（注：赤星鉄馬邸、川崎守之助邸、福井菊三郎邸）の場合、デザインの問題点はいずれも本人の二重生活に必要な、入念な配置計画を作り上げることであった。客と、家族と、使用人のための分かれた玄関。その家に親しくない人を入れるための、異なった種類の応接間。管理人ためには場所や、その事務室など。和洋両設備の厨房。伝統的日本間と同様に、畳のある様式の部屋など。

（レーモンド自伝より）

○暮らしの様子

【赤星家時代】

大玄関から子どもが入ることはあまりなかった。（普段の家族団らんの場合は日本間で、家族玄関から入り、日本間へ行くのがいつものルートだったというエピソード。居間・食堂は、普段の食事の場所というよりも、一族が大勢集まるときなどに使われたという。）

（赤星鉄馬孫へのヒアリングより）

竣工直後

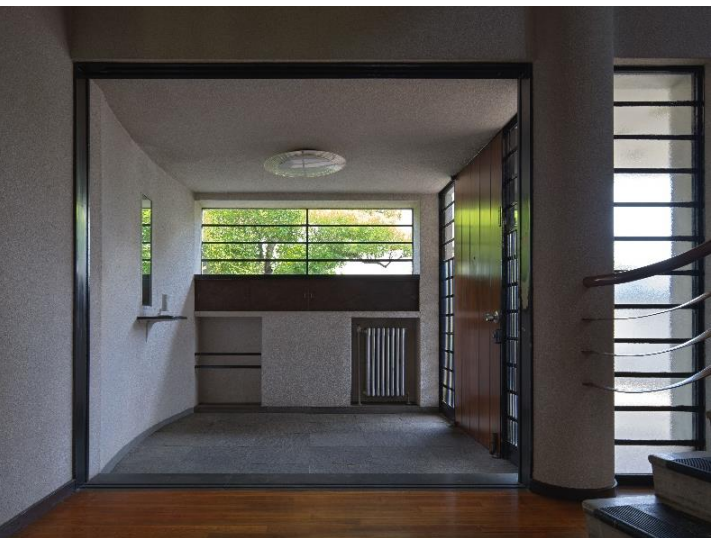


（ペンシルベニア大学提供写真より）

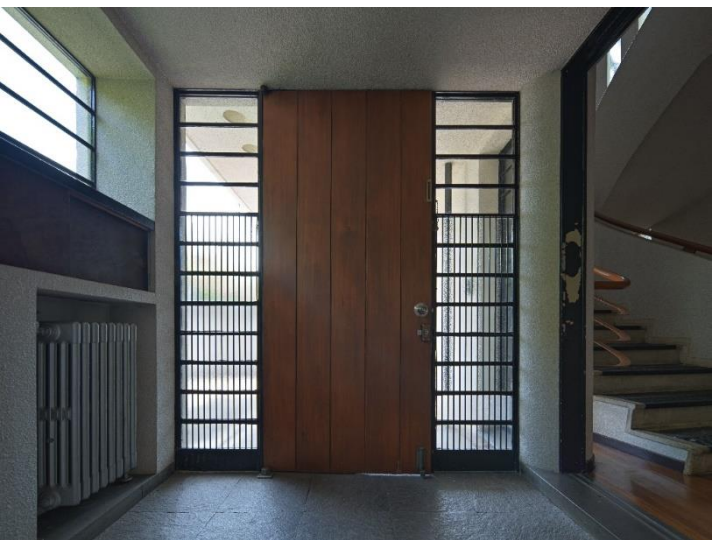


（「アントニン・レーモンド建築詳細図譜」より）

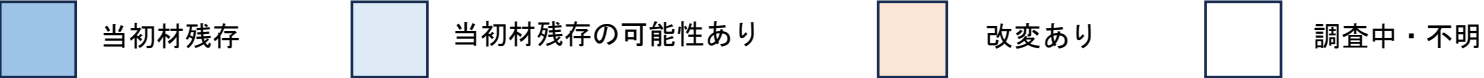
現在



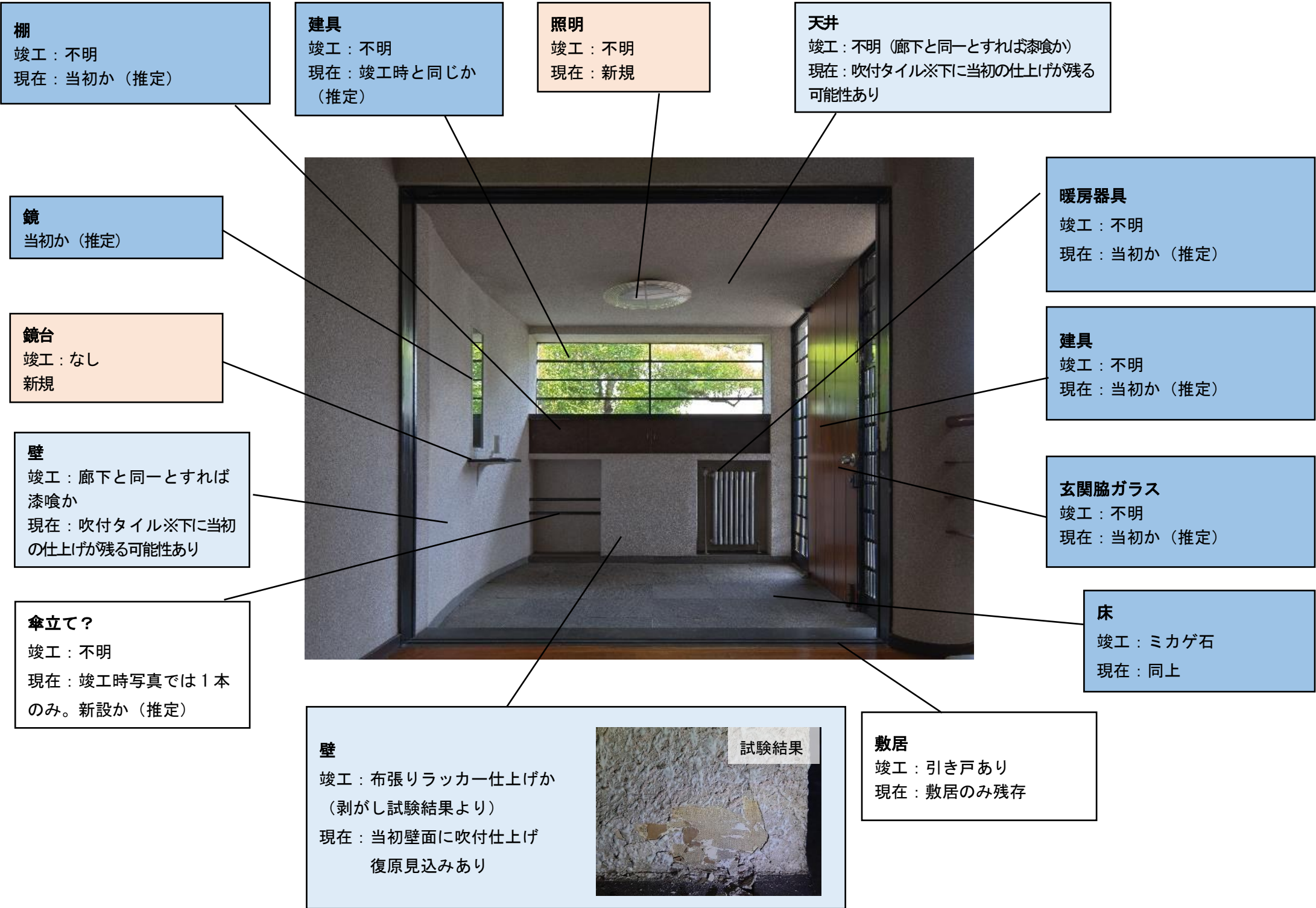
北を見る



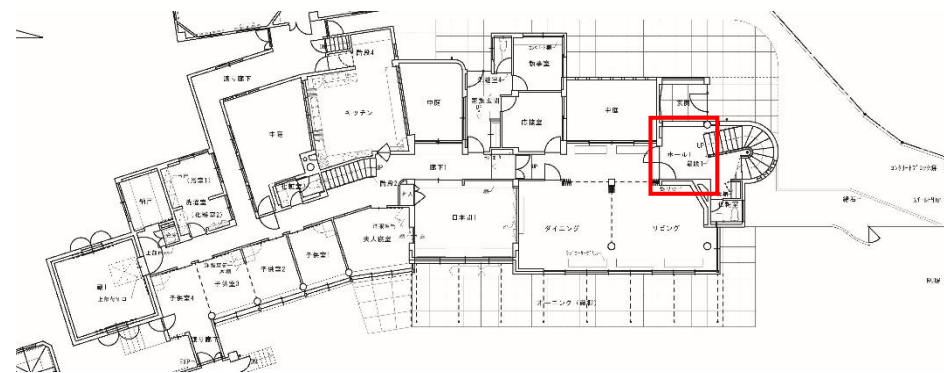
東を見る



各部分・部位の改変・残存状況



■1階 ホール



当初材残存



当初材残存の可能性あり



改変あり

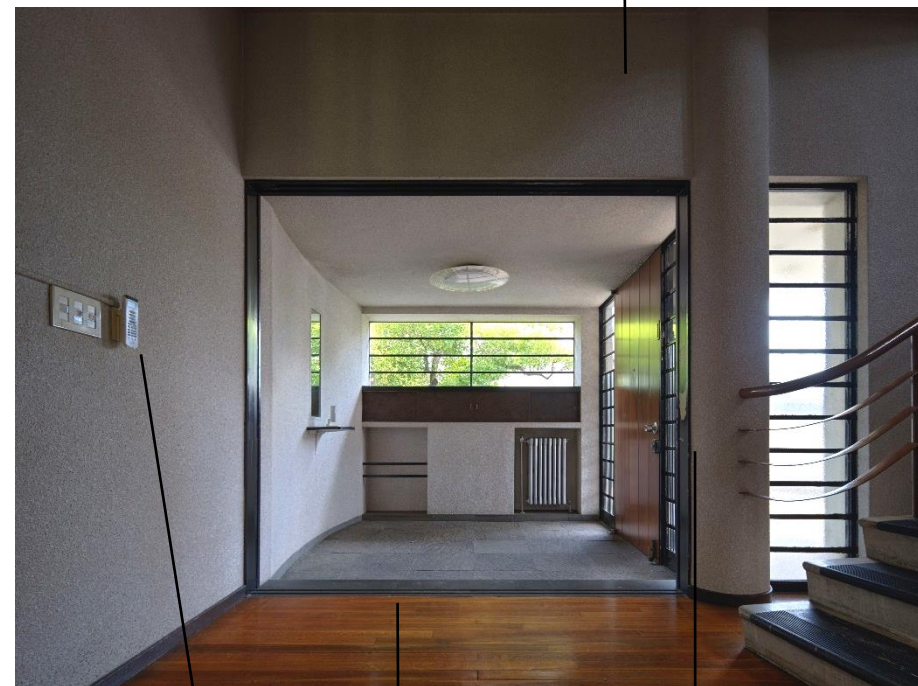


調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況

天井

竣工：竣工：不明（廊下と同一とすれば漆喰か）
現在：吹付タイル※下に当初の仕上げが残る可能性あり



壁

竣工：廊下と同一とすれば漆喰か
現在：吹付タイル
復原見込みあり

床

竣工：硬質石
現在：当初か（推定）

柱

竣工：漆喰布張りか
※剥がし試験結果より
現在：吹付タイル
復原見込みあり



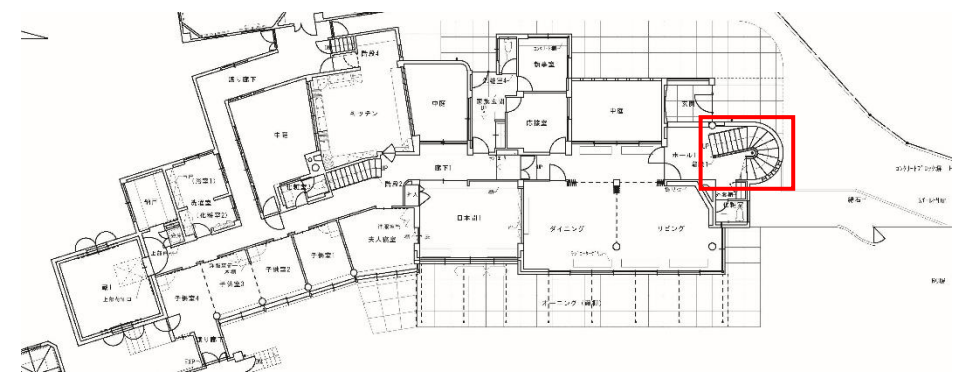
各部分・部位の改変・残存状況



ガラス

竣工：フィギュアドグラス（型板ガラス）
現在：一部当初か（推定）

階段 1



竣工直後

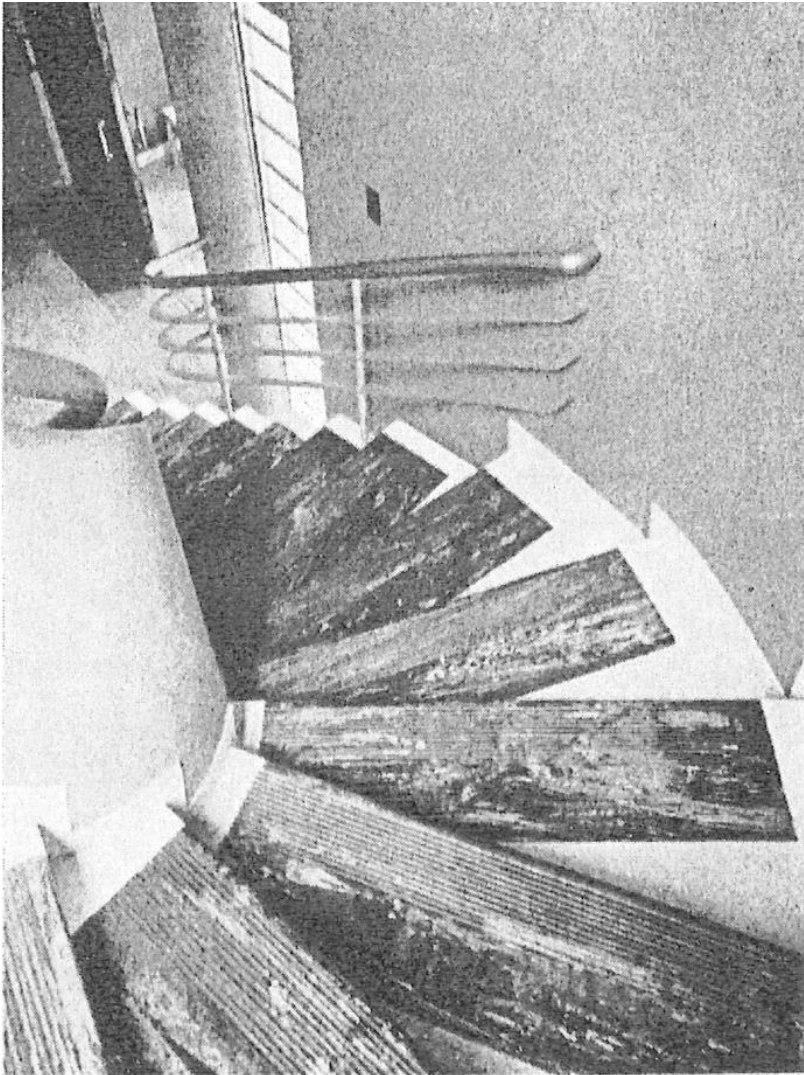


(Architectural record より)

現在



竣工直後



(新建築より)

当初材残存
 当初材残存の可能性あり
 改変あり
 調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況

壁

竣工：不明
現在：吹付タイル ※下に当初の仕上げが残る
色は廊下と同じベージュ
復原見込みあり

照明

竣工：白熱灯（写真より）
現在：新規

建具

竣工：ガラス
現在：当初か

柱

竣工：パイプ手摺
現在：当初

階段

竣工：人造石研ぎ出し
 ゴム製滑り止め
現在：当初

各部分・部位の改変・残存状況

天井

竣工：不明
現在：吹付タイル ※下に当初の仕上げが残る

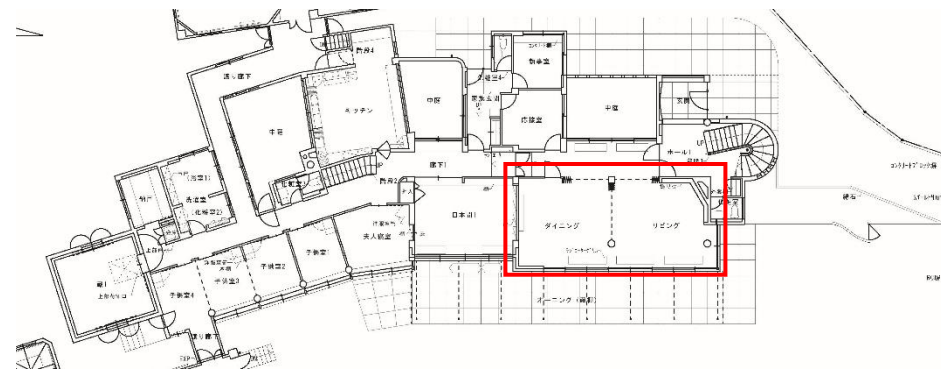
照明

竣工：不明
現在：新規

壁

竣工：不明
現在：吹付タイル ※下に当初の仕上げが残る

■1階 居間・食堂



○設計意図

【旧赤星鉄馬邸の居間・食堂の仕様】

Folding partitions shown open and closed, separate or make into one general space the hall and the living and dining rooms, as desired. The partitions are made of light wood frames covered with cloth of two colors: they are arranged with piano hinges and ball-bearing hangers.

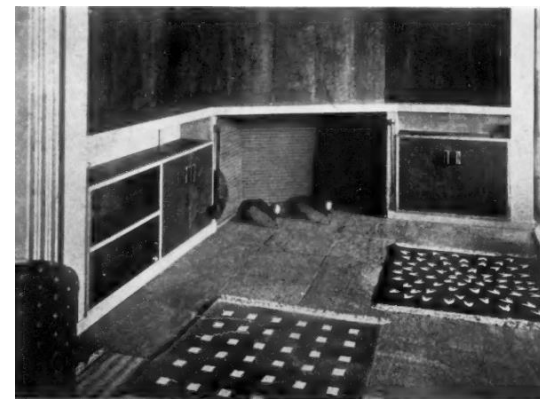
(訳) 折り畳み式の仕切りは、開いた状態と閉じた状態の両方を掲載、必要に応じて、ホールとリビング ルームおよびダイニング ルームを分離したり、1 つの大きなスペースにまとめたりできる。仕切りは、2 色の布で覆われた明るい木製のフレームで作られており、ピアノヒンジとボールベアリングハンガーで設置されている。

The living room fireplace has a concrete shelf, lacquered on top, a cast-iron hearth back and split stone paving. Panels are redwood veneer, and the walls plaster, finished with a flat oil paint. The concrete columns are lacquered.

(訳) リビングルームの暖炉には、上部をラッカー塗装したコンクリートの棚、铸铁製の炉床、および割石の舗装が施されている。パネルはレッドウッドのベニヤ板、壁は漆喰で、フラットなオイルペイントで仕上げられている。コンクリートの柱はラッカー塗装。

(Architectural record より)

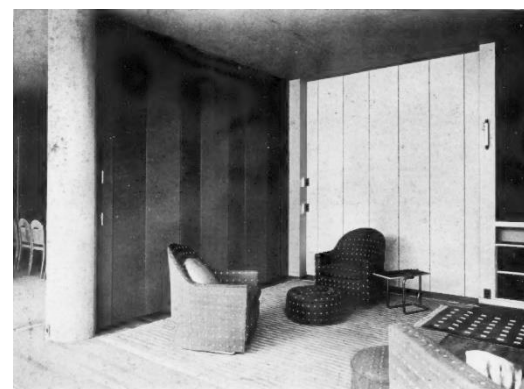
竣工直後



(Architectural record より)



(Architectural record より)



(Architectural record より)



(Architectural record より)

現在

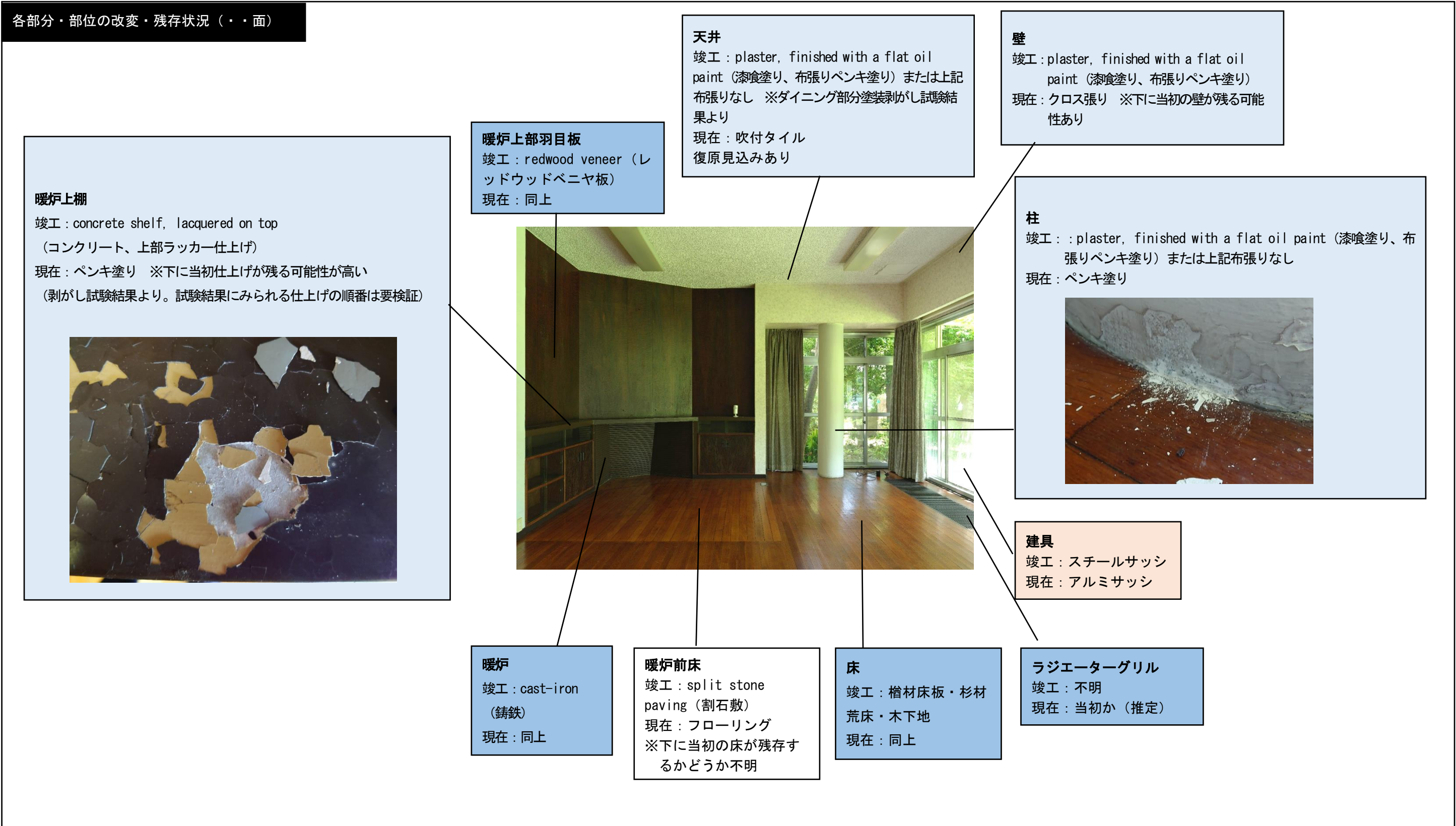


当初材残存

当初材残存の可能性あり

改変あり

調査中・不明



当初材残存

当初材残存の可能性あり

改変あり

調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況

壁
竣工：finished with a flat oil paint（布張りペンキ塗り）
現在：クロス張り ※下に当初の壁が残存する可能性あり

照明
竣工：不明
現在：新設

照明
竣工：白熱灯（写真より）
現在：なし

天井
竣工：竣工：plaster, finished with a flat oil paint（漆喰塗り、布張りペンキ塗り）または上記布張りなし ※ダイニング部分塗装剥がし試験結果より
現在：吹付タイル



建具
竣工：スチールサッシ
現在：アルミサッシ

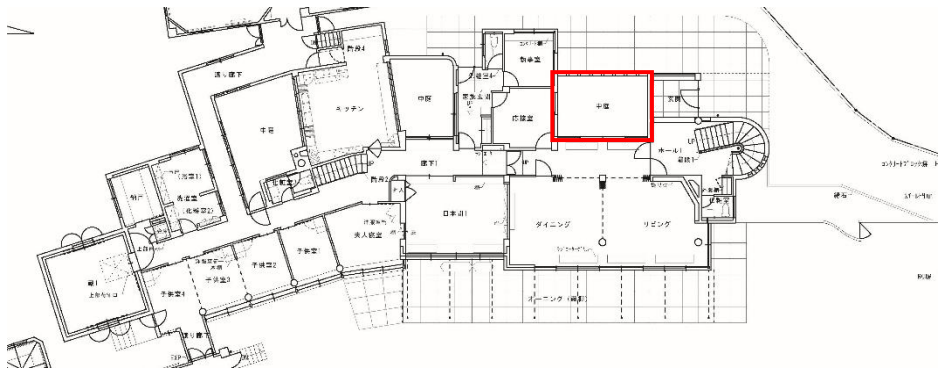
柱
竣工：：plaster, finished with a flat oil paint（布張りペンキ塗り）または上記布張りなし（リビング部分の塗装剥がし試験結果より）
現在：ペンキ塗り

仕切り壁
竣工：light wood frames covered with cloth of two colors
現在：新設

床
竣工：檜材床板・杉材荒床・木下地
現在：同上



■中庭



○設計意図

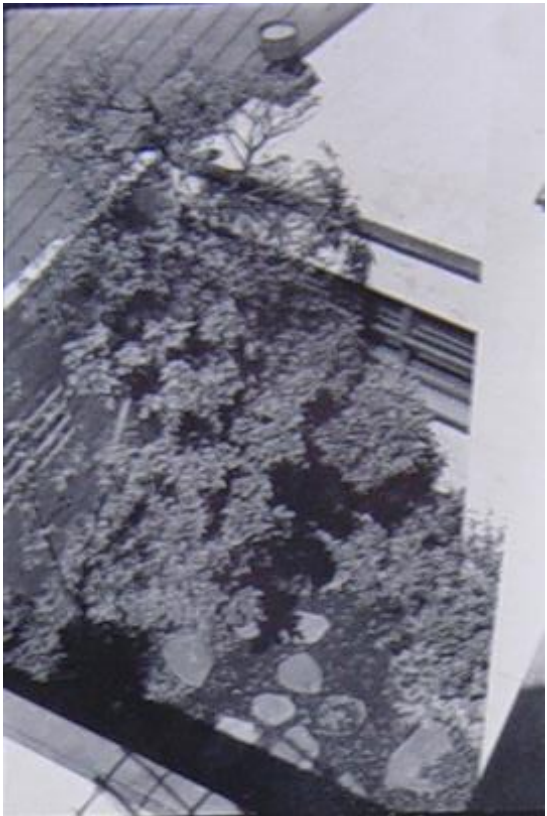
【旧赤星鉄馬邸の仕様】

The walls of the interior gardens are tinted with oil paint as a background for the carefully composed planting. The natural earth is partly covered with moss and stepping stones or split stone paving.

(訳) 中庭の壁は、丁寧に構成された植栽の背景としてオイルペイントで着色されている。自然の土を一部苔と飛び石、または割石の舗装で覆っている。

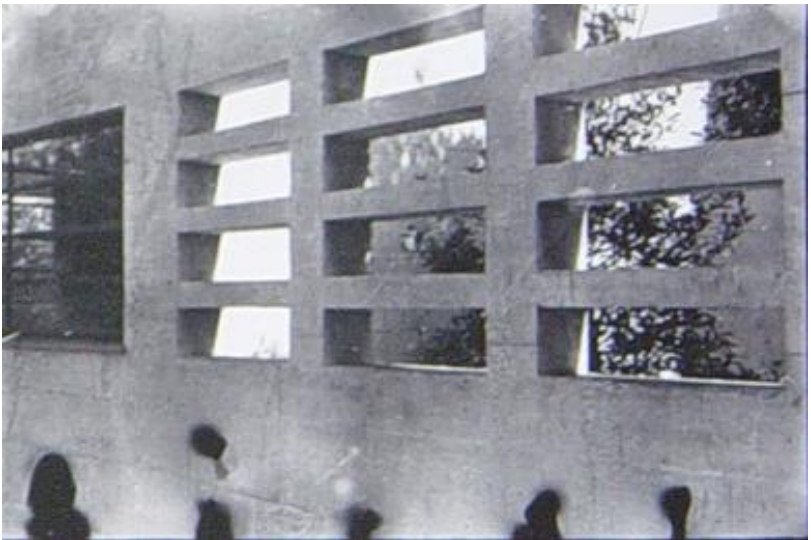
(Architectural record より)

竣工直後



(ペンシルベニア大学提供写真より)

現在



(ペンシルベニア大学提供写真より)



各部分・部位の改変・残存状況



沓脱石

竣工：現在と同じか
現在：当初か

灯籠の頭

竣工：不明
現在：後補か

水盤（岩）

竣工：不明
現在：上部は竣工時と同じに見えるが、竣工時よりも高くなっているため、一部変更か（推定）

竹筒

竣工：不明
現在：後補か

壁

竣工：コンクリート・オイルペイント仕上げ
現在：ペンキ塗り ※下に当初仕上げがある程度残る可能性あり（塗装剥がし試験より）



植栽

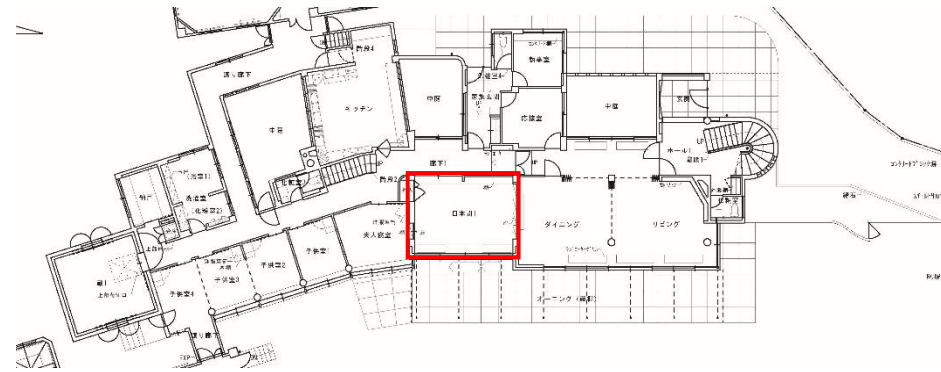
竣工：不明
現在：後補・新規か



飛び石

竣工：苔、飛び石・割石
現在：調査中

■1階 日本間1



○設計意図

【レーモンドが考える日本間】

日本人は旧来の習慣に執着し、今も畳の上に坐るのを好む。畳は単純であり、日本の部屋にあって、無類に詩情がある。西洋の様式と、調和よくつなぐのは難しかったのにも拘わらず、われわれはこのような部屋を日本人のために保護した。また、日本の女性は、今も常時着物を着る。そのため、着物、帯をしまうたんすを置く特別な部屋と、着物をたたむのに必要な、畳の部屋がなければならない。子供達にも、畳のある部屋を都合つけた。畳は、踏めば足ざわりがよく、幾人も練ることができる。

(「私と日本建築」より)

【旧赤星鉄馬邸における日本間の考え方】

この三つ（注：赤星鉄馬邸、川崎守之助邸、福井菊三郎邸）の場合、デザインの問題点はいずれも**本人の二重生活に必要な、入念な配置計画**を作り上げることであった。客と、家族と、使用人のための分かれた玄関。その家に親しくない人を入れるための、異なった種類の応接間。管理人ためには場所や、その事務室など。和洋両設備の厨房。**伝統的日本間と同様に、畳のある様式の部屋**など。

(レーモンド自伝より)

【旧赤星鉄馬邸の仕様】

the Japanese dining room, with redwood veneer ceiling and built-in sideboard, painted muslin walls, sliding doors of coarse linen, and straw floor mats with linen borders.

(訳) 日本式のダイニング ルームには、レッドウッドのベニヤ板の天井と造り付けのサイドボード、塗装されたモスリンの壁、粗いリネンの引き戸、リネンの縁取りの藁のフロアマットがある。

The south wall of the Japanese dining room consists of sliding steel sash which fold and turn at the sides like casements, giving an entirely unobstructed opening.

(訳) 日本のダイニングルームの南の壁は、開き窓のように側面で折り曲げたり回転したりできるスライド式のスチールサッシで構成され、全部開けることができる開口部になっている。

(Architectural Record より)

○暮らしの様子

【赤星家時代】

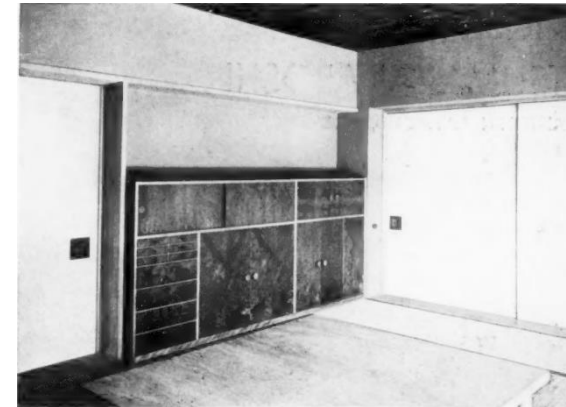
食堂は前に述べた様に主として、客用にあてられるので、現在は食事はその隣の日本間があてられているとのことである。

(新建築より)

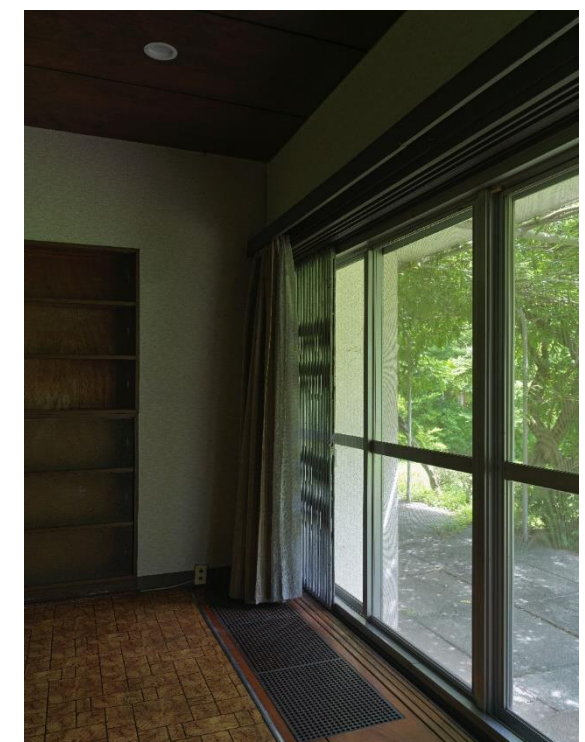
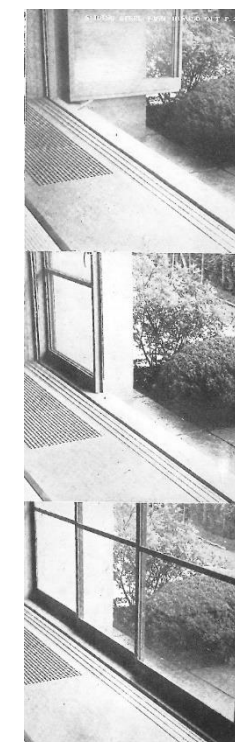
普段の家族団らんの場合は日本間で、家族玄関から入り、日本間へ行くのがいつものルートだった。

(赤星鉄馬孫へのヒアリングより)

竣工直後

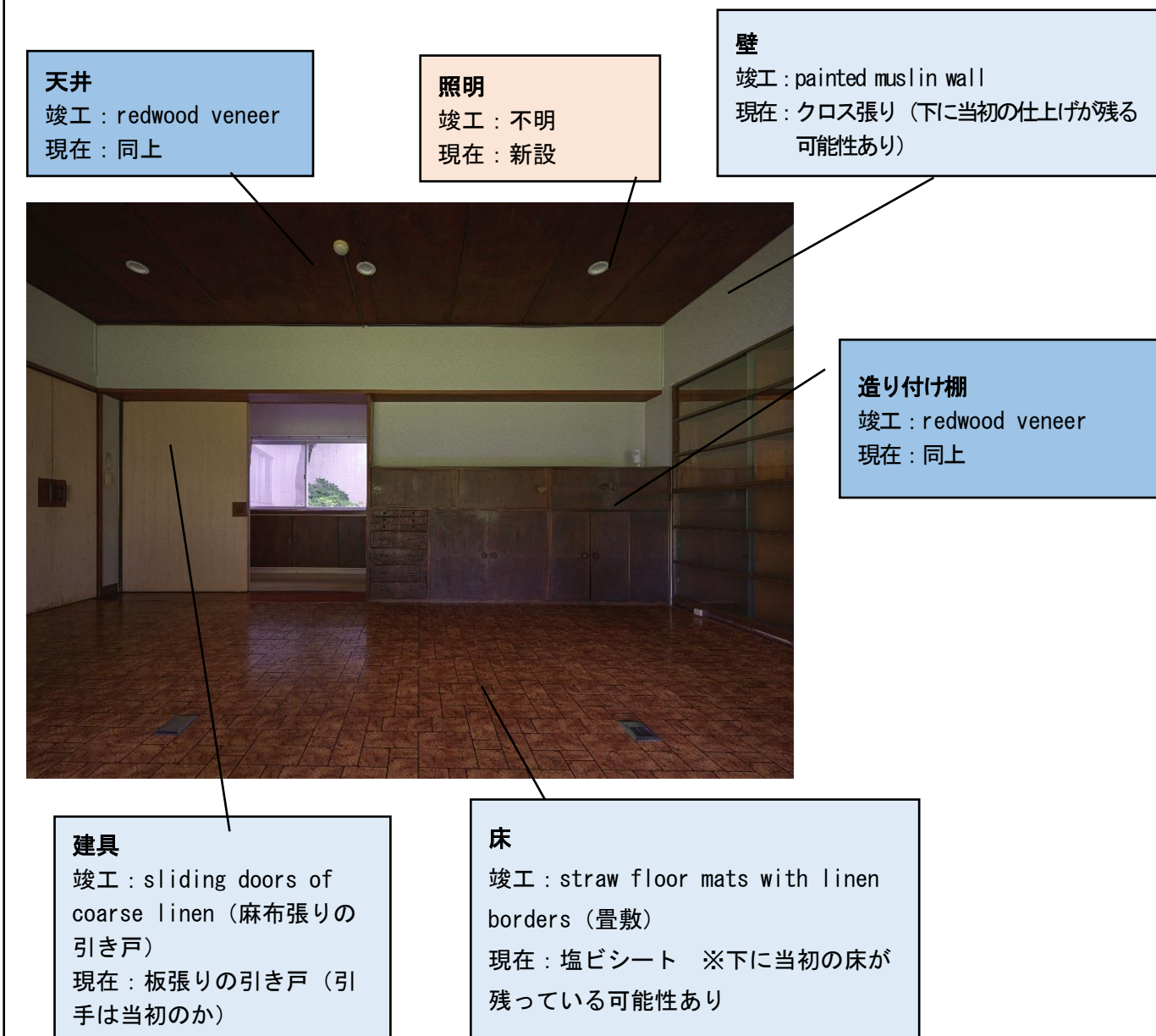


現在

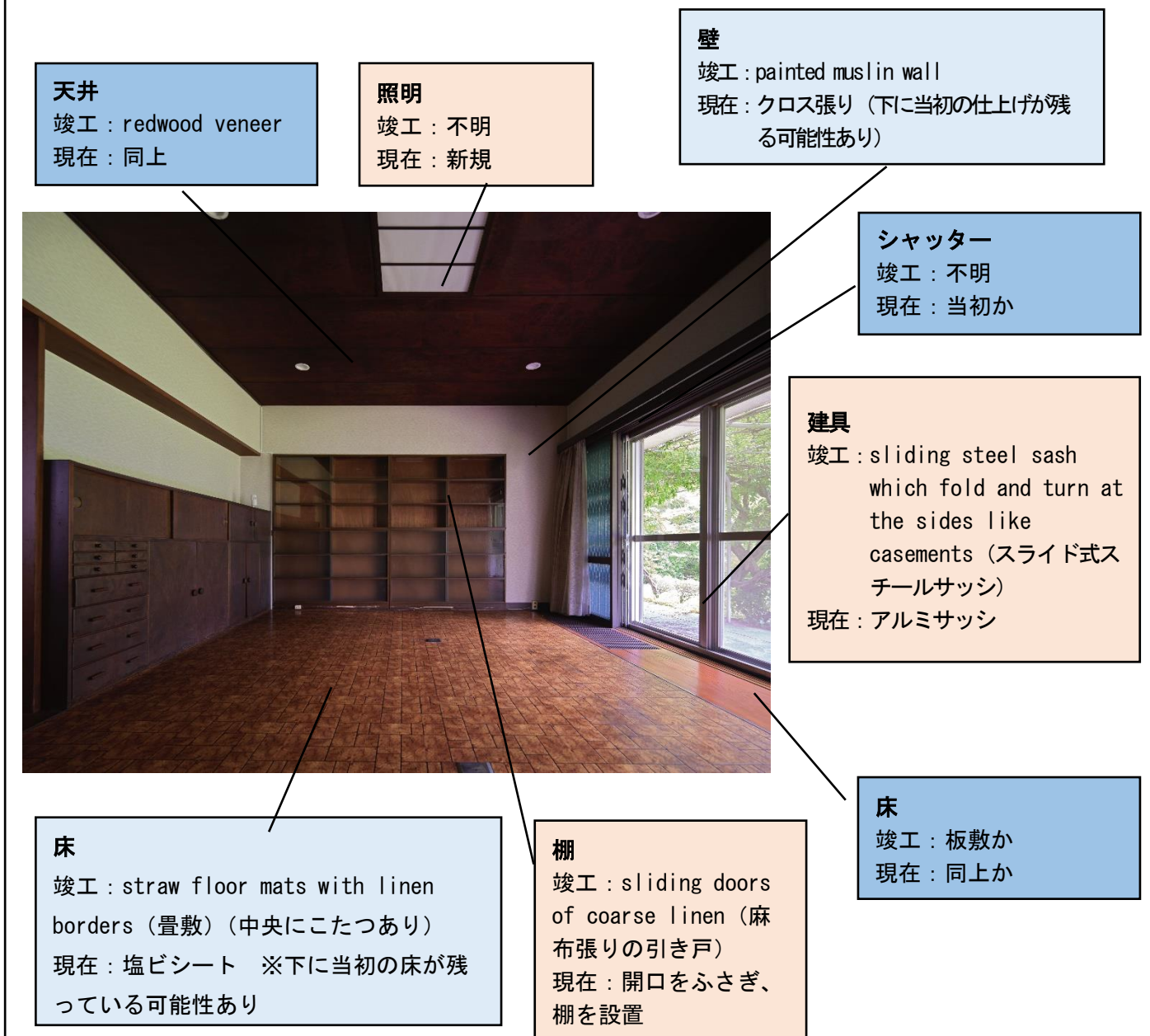


(Architectural record より)

各部分・部位の改変・残存状況



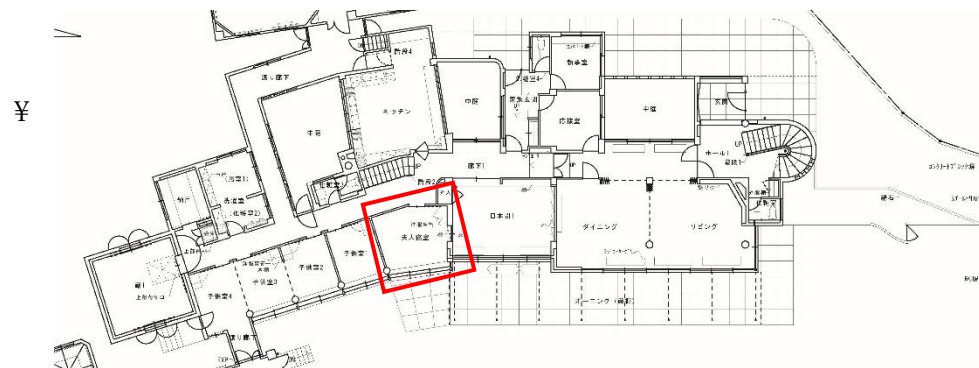
各部分・部位の改変・残存状況



■1階 夫人寝室

竣工直後

現在



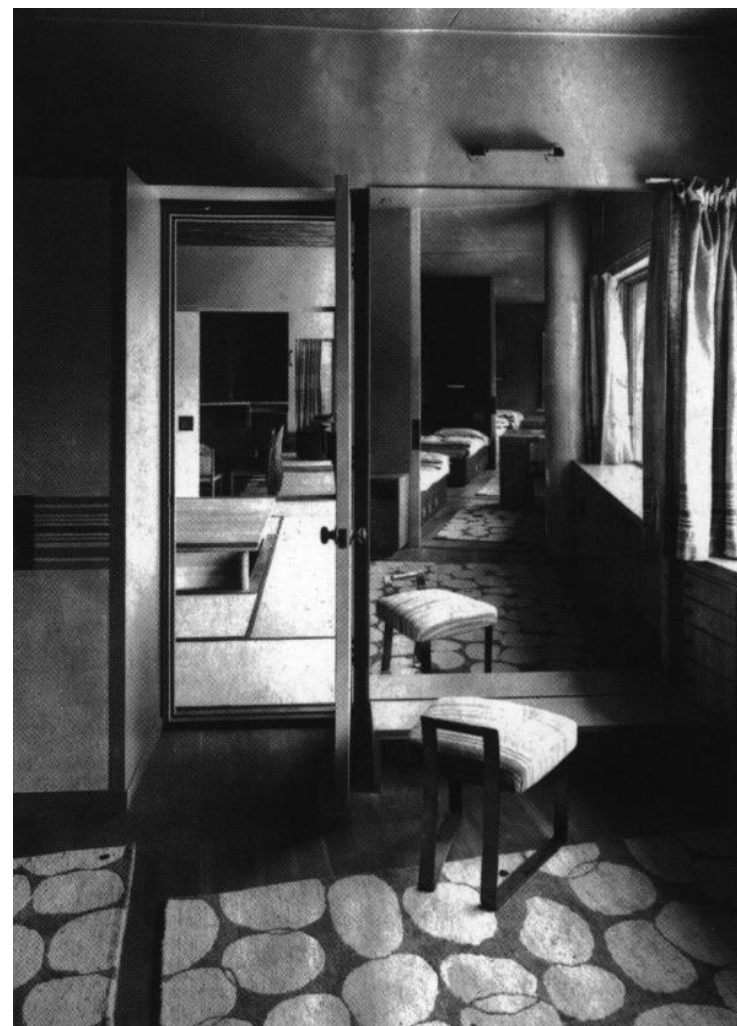
○設計意図

【旧赤星鉄馬邸の仕様】

日本間、食堂、居間と向へ続く、壁天井居間と同様の仕上げ、色はオレンジ黄色系統。

敷物は淡緑色に鼠色。

(新建築より)



(Architectural record より)

各部分・部位の改変・残存状況

建具

竣工：不明
現在：当初か（推定）

天井

竣工：ボード張り
現在：同上・ペンキ仕上げ
復原見込みあり

壁

竣工：不明
現在：クロス張り ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

造作家具（洋服箆笥）


竣工：不明
現在：扉ペンキ塗り・取手は当初か（推定）

棚

竣工：開き戸あり
現在：食堂・居間へ続く開き戸を塞いで棚を設置

床

竣工：檜材床板・杉材荒床・木下地
現在：塩ビシート ※下に当初の床が残る可能性あり



各部分・部位の改変・残存状況

天井

竣工：ボード張り
現在：同上・ペンキ仕上げ
復原見込みあり

照明

竣工：不明
現在：新規

壁

竣工：不明
現在：クロス張り ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

建具

竣工：ガラスサッシュ
現在：アルミサッシ

棚

竣工：コンクリートラッカー仕上げ
現在：同上

造作家具（着物箆笥）

竣工：不明
現在：当初か（推定）

暖房器具

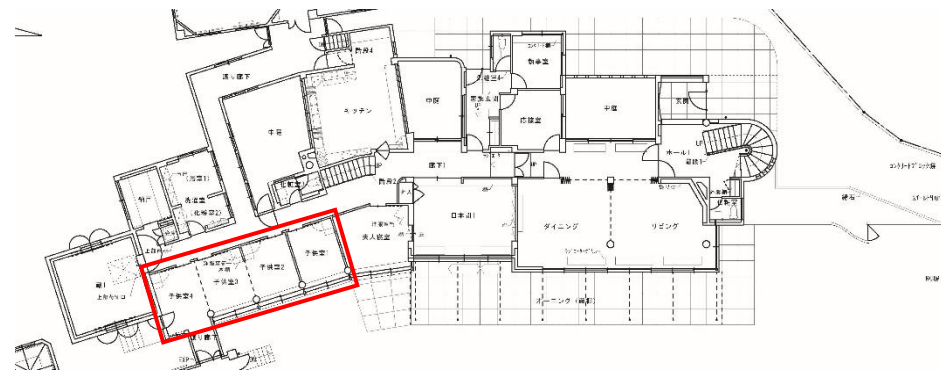
竣工：ラジエーター
現在：当初か（推定）

床

竣工：檜材床板・杉材荒床・木下地
現在：塩ビシート ※下に当初の床が残る可能性あり



■1階 子供室1~4



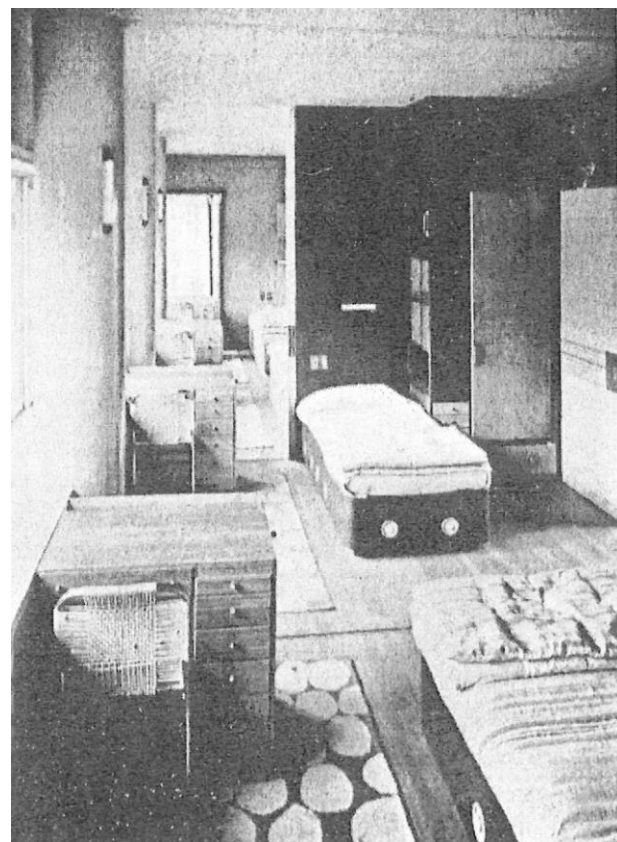
○設計意図

【旧赤星鉄馬邸の仕様】

四つ並んだ室の内二ツ宛は折疊戸で、その間は襖で仕切られている。
(新建築より)

竣工直後

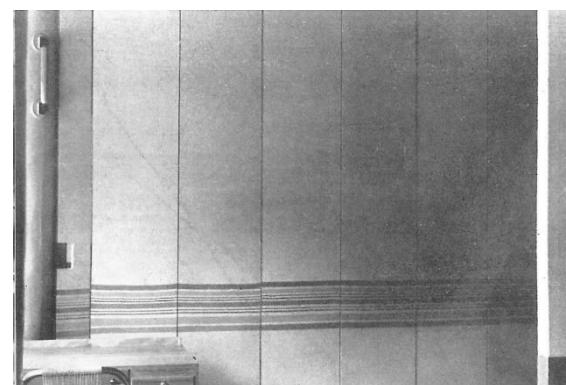
現在



(「新建築」より)



(Architectural record より)



(Architectural record より)



当初材残存 当初材残存の可能性あり 改変あり 調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況（子供室 1）

天井
竣工：ボード張り
現在：同上・ペンキ仕上げ
復原見込みあり

建具
竣工：不明
現在：アルミサッシ


壁
竣工：finished with a flat oil paint
（布張りペンキ塗り）
現在：クロス張り ※下に当初の仕上げ
が残る可能性あり

柱
竣工：コンクリート布張りラッ
カー仕上げ
現在：ペンキ塗り ※下に当初
の仕上げが残る可能性あ
り（剥がし試験結果よ
り）

棚
竣工：不明
現在：当初か（推
定）

床
竣工：檜材床板・杉材荒床・木下地
現在：塩ビシート ※下に当初の床
が残る可能性あり

暖房器具
竣工：ラジエーター
現在：当初か（推定）




各部分・部位の改変・残存状況（子供室 2）

天井
竣工：ボード張り
現在：同上・ペンキ
仕上げ
復原見込みあり

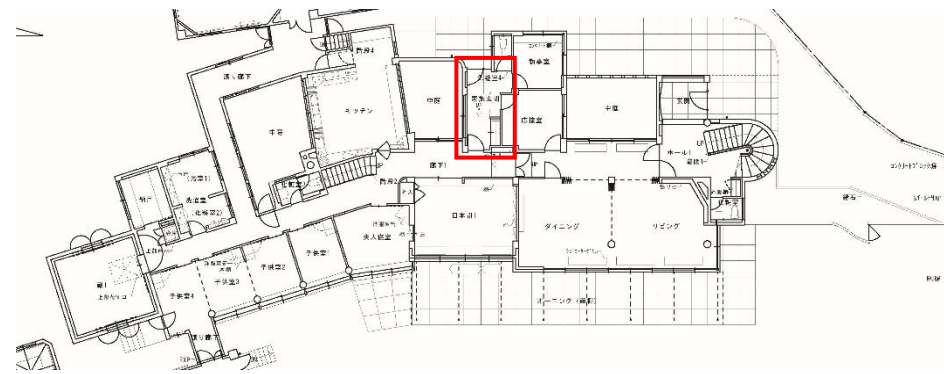
壁
竣工：finished with a flat oil paint
（布張りペンキ塗り）
現在：クロス張り ※下に当初の仕上げ
が残る可能性あり

床
竣工：檜材床板・杉材荒床・木下地
現在：塩ビシート ※下に当初の床
が残る可能性あり

棚
竣工：不明
現在：当初か（推定）



■1階 家族玄関



○設計意図

【レーモンドが考える日本の玄関】

召使いは何人もいて、昔のヨーロッパのように家族の一員と考えられている。女主人は召使いとともに働き、富裕な家では忠実な執事がうちの出来事を始末する。執事は主人の送り迎え、金銭の出入を管理する。彼は出来るたでさまざまな出入口の近くに、自分の部屋がなくてはならない。客用の入口は表玄関であり、時には主人専用の特別の玄関もある。

（レーモンド自伝より）

【旧赤星鉄馬邸における玄関の考え方】

この三つ（注：赤星鉄馬邸、川崎守之助邸、福井菊三郎邸）の場合、デザインの問題点はいずれも本人の二重生活に必要な、入念な配置計画を作り上げることであった。客と、家族と、使用人のための分かれた玄関。その家に親しくない人を入れるための、異なった種類の応接間。管理人ためには場所や、その事務室など。和洋両設備の厨房。伝統的日本間と同様に、畳のある様式の部屋など。

（レーモンド自伝より）

○暮らしの様子

【赤星家時代】

大玄関から子どもが入ることはあまりなかった。（普段の家族団らんの場合は日本間だったため、家族玄関から入り、日本間へ行くのがいつものルートだったというエピソード。居間・食堂は、普段の食事の場所というよりも、一族が大勢集まるときなどに使われたという。）

（赤星鉄馬孫へのヒアリングより）

当初材残存

当初材残存の可能性あり

改変あり

調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況

天井
竣工：不明
現在：当初か（推定）

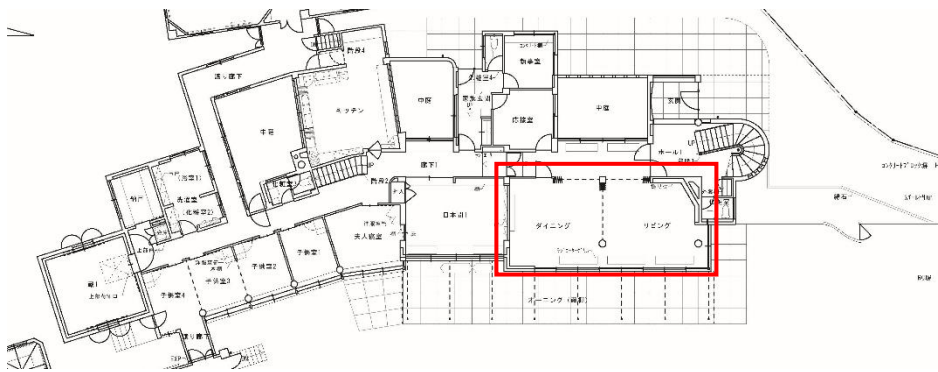
壁
竣工：不明（廊下と同一とすれば漆喰か）
現在：ペンキ塗り ※下に当初の壁が残存する可能性あり

建具
竣工：不明
現在：新規か

玄関脇ガラス
竣工：不明
現在：枠は当初、ガラスは新規か

床（たたき）
竣工：花崗岩
現在：同上

■1階 執事室



【レーモンドが考える日本の執事室】

召使いは何人もいて、昔のヨーロッパのように家族の一員と考えられている。女主人は召使いとともに働き、富裕な家では忠実な執事がうちの出来事を始末する。執事は主人の送り迎え、金銭の出入を管理する。彼は出来るたでさまざまな出入口の近くに、自分の部屋がなくてはならない。客用の入口は表玄関であり、時には主人専用の特別の玄関もある。

(レーモンド自伝より)

当初材残存

当初材残存の可能性あり

改変あり

調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況

天井
竣工：不明
現在：当初か（推定）

壁
竣工：plaster, finished with a flat oil paint（布張りペンキ塗り）
現在：クロス張り ※下に当初の壁が残存する可能性あり

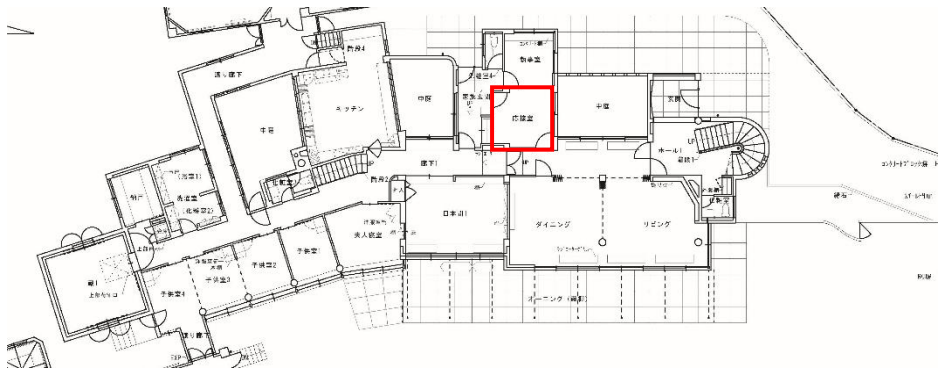
建具
竣工：不明
現在：アルミサッシ

床
竣工：不明
現在：カーペット敷

棚
竣工：不明
現在：当初か（推定）

暖房器具
竣工：ラジエーター
現在：当初か（推定）

■1階 応接室



○設計意図

【レーモンドが考える日本の応接室】

建物に入る時、誰も靴をぬぎ、スリッパを履く。床は、何か神聖なものとなり、外のよごれなどでけがすべきではなくなる。外来客は、決して家族の団欒の中に入れてはもらえない。分離された、人気のない応接室が、接客用に設けられている。応接室は玄関脇になくなくてはならず、眺望は与えられていない。
（「私と日本建築」より）

【旧赤星鉄馬邸における応接室の考え方】

この三つ（注：赤星鉄馬邸、川崎守之助邸、福井菊三郎邸）の場合、デザインの問題点はいずれも**本人の二重生活に必要な、入念な配置計画**を作り上げることであった。客と、家族と、使用人のための分かれた玄関。その家に親しくない人を入れるための、異なった種類の応接間。管理人ためには場所や、その事務室など。和洋両設備の厨房。伝統的日本間と同様に、畳のある様式の部屋など。
（レーモンド自伝より）

当初材残存

当初材残存の可能性あり

改変あり

調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況

天井

竣工：不明
現在：ボード張り・当初か（推定）

壁

竣工：不明
現在：クロス張り ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

建具

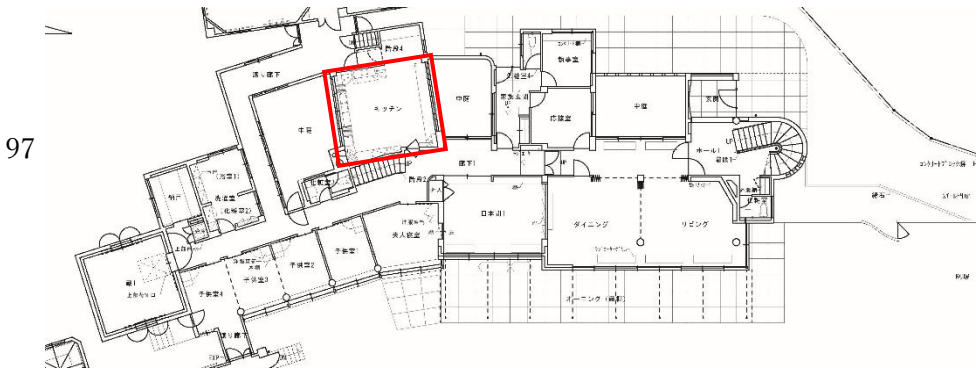
竣工：不明
現在：アルミサッシ

床

竣工：不明
現在：当初か（推定）

A photograph of the interior of the reception room. The room features a wooden floor, a built-in wooden cabinet with a sink and countertop, and a window with sheer curtains. The walls are covered in a light-colored material, and the ceiling is made of wooden boards. Arrows from the surrounding text boxes point to these specific features in the photo.

■1階 厨房



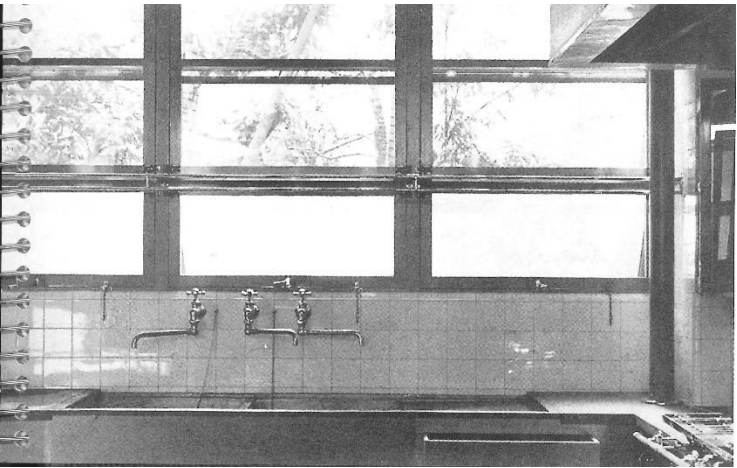
○設計意図

【レーモンドが考える日本の台所】

日本の大きな家の台所は、今なお、封建時代の台所と同じであるが、われわれには到底測り知れぬほど洗練されている。台所では和風と洋風の二種の食事の用意を必要とする。日本料理は美味かつ綿密である。特殊な道具を必要とし、棚は、ざるや、木と馬の毛で構成されたこし器等をおく。われわれは、数え切れないほどの入れ物、漆小皿、陶皿、盆を置く配膳室をつくった。これらは、外国の銀器、ガラス器と同様必要である。

（「私と日本建築」）

竣工直後



現在



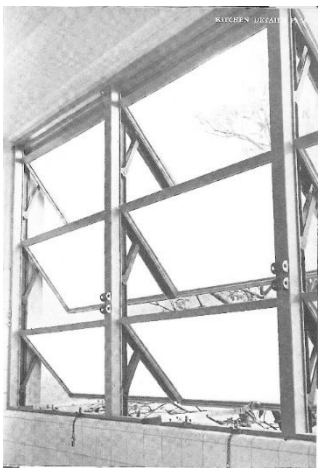
竣工直後



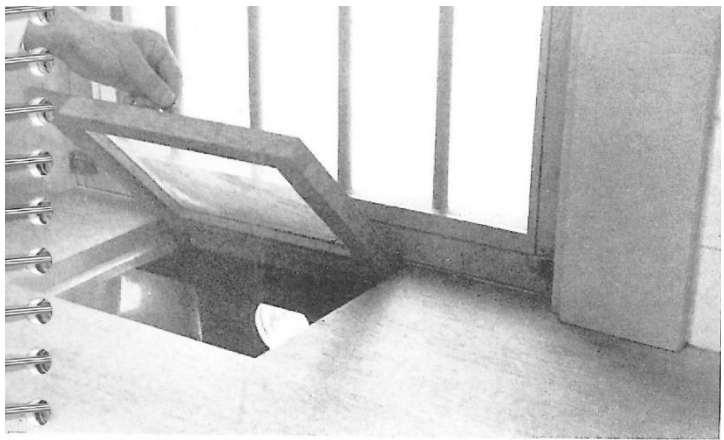
（詳細図譜より）



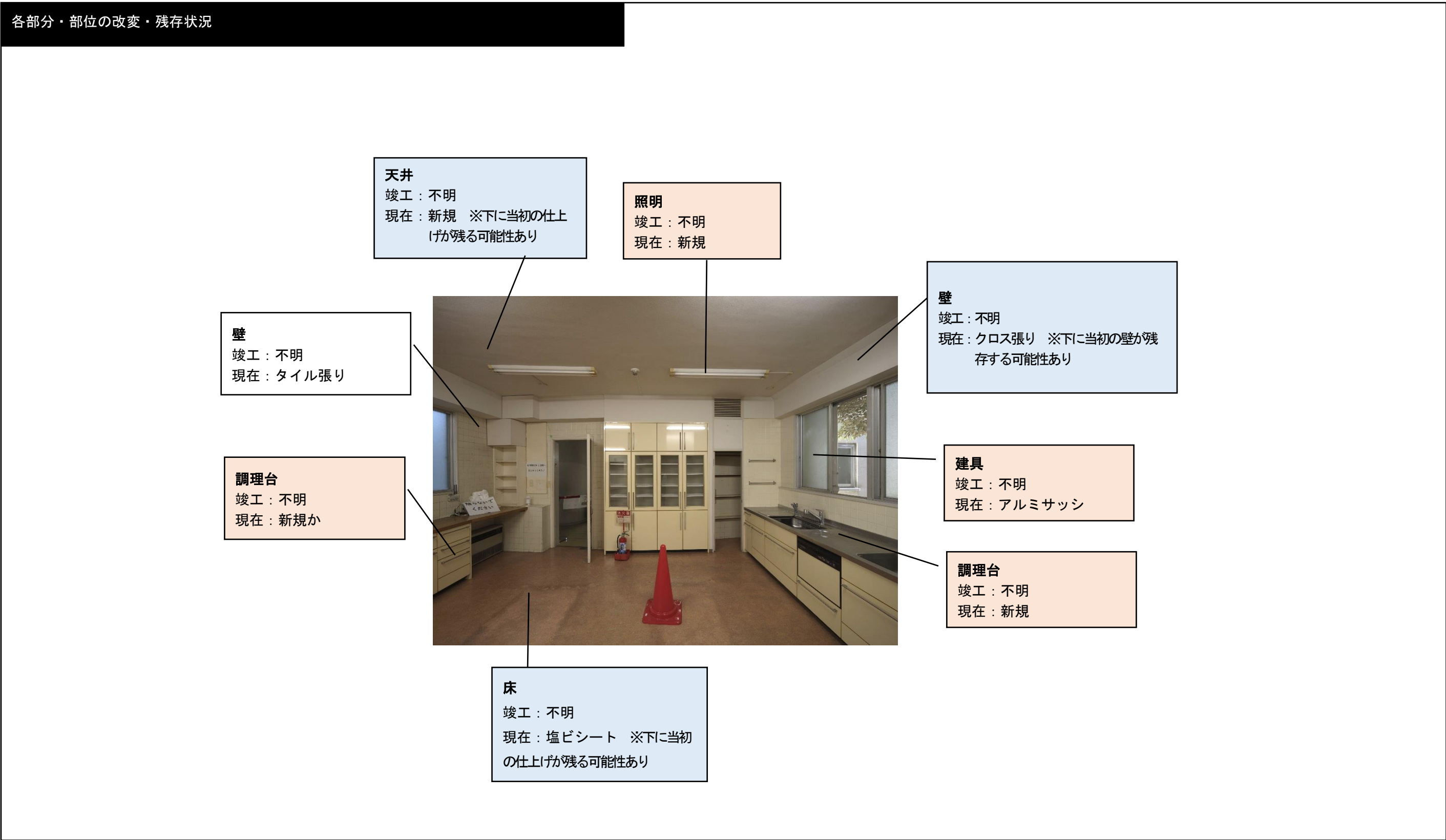
（詳細図譜より）



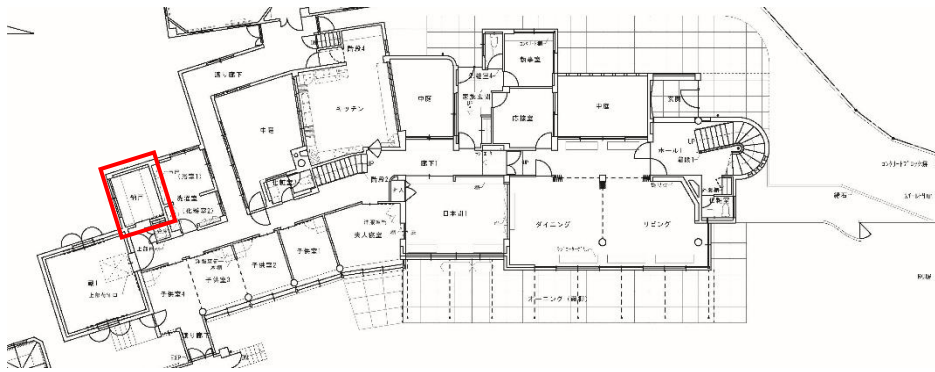
（詳細図譜より）



当初材残存
 当初材残存の可能性あり
 改変あり
 調査中・不明



■1階 化粧室1



- 当初材残存
- 当初材残存の可能性あり
- 改変あり
- 調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況

照明
竣工：不明
現在：当初か（推定）

天井
竣工：不明
現在：クロス張り ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

建具
竣工：不明
現在：アルミサッシ

壁
竣工：不明
現在：クロス張り ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

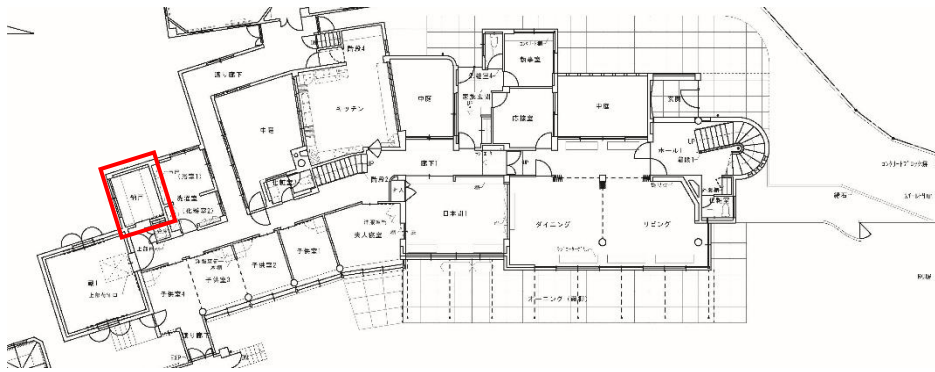
洗面台
竣工：不明
現在：新規か（推定）

鏡
竣工：不明
現在：当初か（推定）

棚
竣工：不明
現在：当初か（推定）



■1階 納戸



当初材残存



当初材残存の可能性あり



改変あり



調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況

天井

竣工：不明
現在：ボード張りペンキ塗り・当初ボードか（推定）

照明

竣工：不明
現在：新規

建具

竣工：不明
現在：アルミサッシ

棚

竣工：不明
現在：当初か（推定）

壁

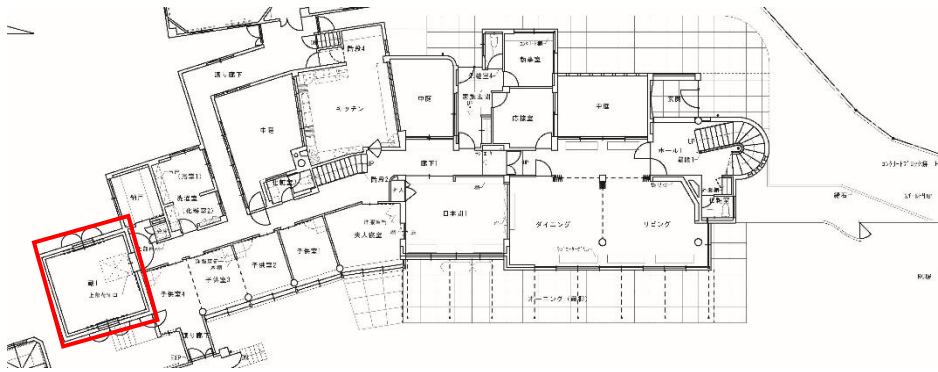
竣工：不明
現在：漆喰仕上げ

床

竣工：不明
現在：当初か（推定）



■1階 蔵1



○設計意図

【レーモンドが考える日本の蔵】

また、蔵がある。これは倉庫を高尚にしたもので、家宝等をしまう。たとえば、掛軸、珍しい陶磁器、伝来の刀剣類等。蔵は二重構造。一つが、他のもう一つの蔵を覆う。外部は不燃。湿気と防虫の設備が施されている。内部は木造。扉は三重。鉄扉、ガラス戸、防虫網戸がつく。内部構造は図書館等に似ている。木製の棚には、緑の紐でしばった、白木の箱が並び、その中には綿と絹で包んだ家宝が入れてある。日本人はこの方法で、何世紀もの間、絹や紙に描かれた絵、立派な磁器などを保存して来た。各箱には番号がつけられ、整理される。執事や、家の女主人はその鍵と整理帳を預かる。その人達は、蔵の紅葉のためには費用を惜しまない。

(「私と日本建築」)

当初材残存

当初材残存の可能性あり

改変あり

調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況

天井
竣工：不明
現在：板張り・当初か（推定）

照明
竣工：不明
現在：当初またはそれに近い時期か
（推定、松下電器器具製作所の二股ソケットに似た製品か）

壁
竣工：不明（板張りか）
現在：板張り

建具
竣工：防火扉・網戸・ガラス戸・鉄格子
現在：防火扉なし

棚
竣工：不明
現在：当初か（推定）

床
竣工：コンクリート床
現在：板張り

当初材残存

当初材残存の可能性あり

改変あり

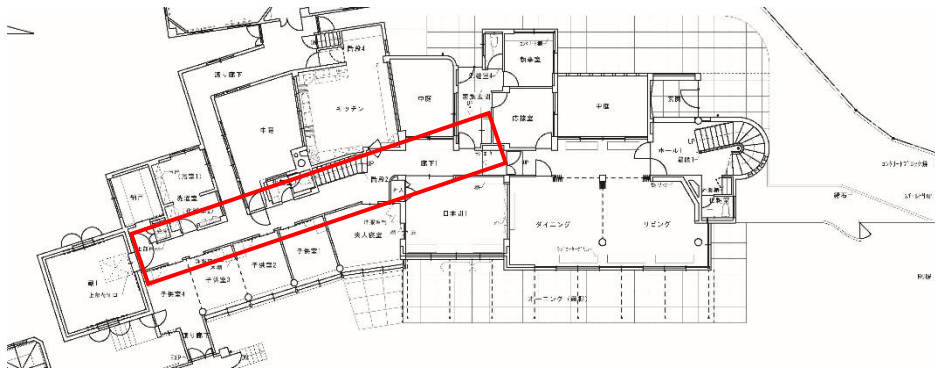
調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況



扉
竣工：不明
現在：ペンキ塗り ※下に当初
仕上げが残る可能性あり

■1階 廊下1



当初材残存



当初材残存の可能性あり



改変あり



調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況

天井

竣工：ボード張り
現在：同上

壁

竣工：不明
現在：クロス張り ※下に当初の壁が残存する可能性あり



建具

竣工：不明
現在：アルミサッシ

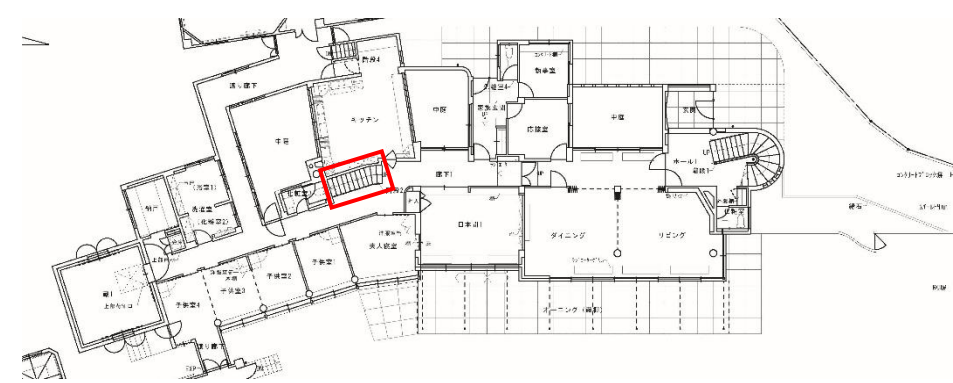
床

竣工：不明
現在：ビニールクロス張り ※下に当初の床が残る可能性あり

棚

竣工：不明
現在：当初か

■階段 2



竣工直後



現在



(ペンシルベニア大学提供写真より)

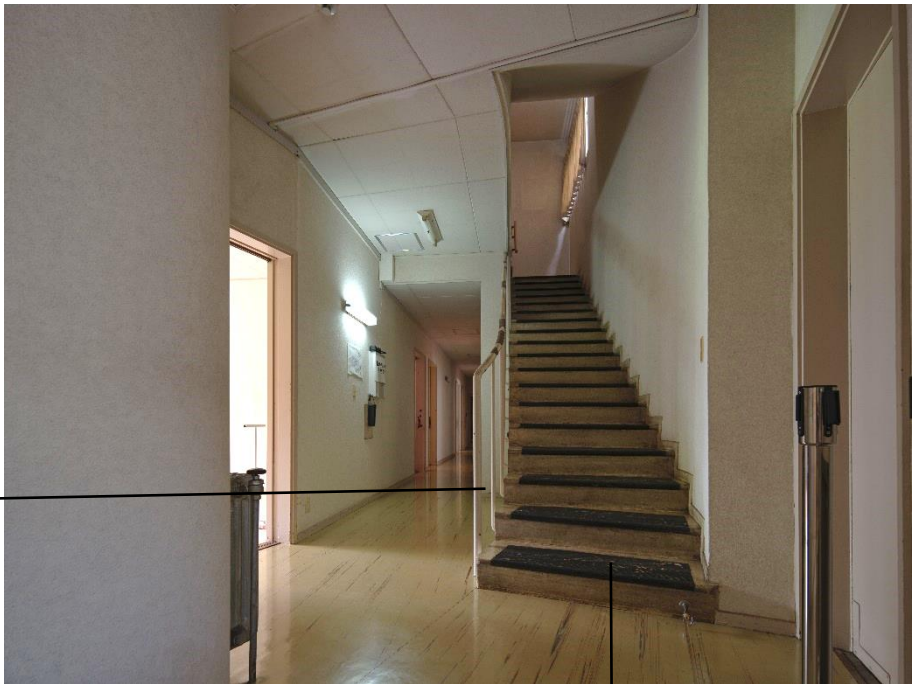
当初材残存

当初材残存の可能性あり

改変あり

調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況



手摺
竣工：パイプ手摺
現在：当初

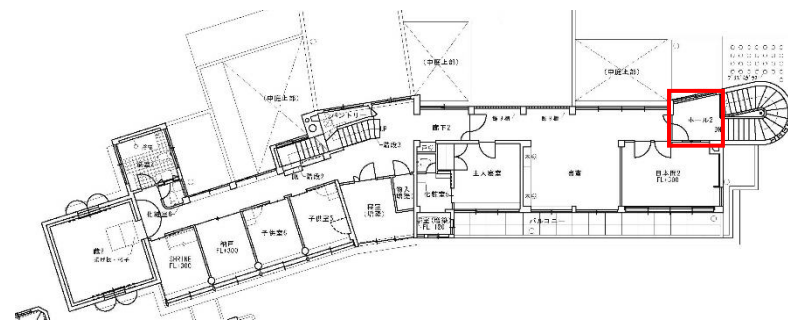
階段
竣工：人造石研ぎ出し
 ゴム製滑り止め
現在：当初

各部分・部位の改変・残存状況



暖房器具
竣工：ラジエーター
現在：当初か（推定）

■2階 ホール2



当初材残存



当初材残存の可能性あり



改変あり



調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況

建具

竣工：不明

現在：当初か（推定）

建具

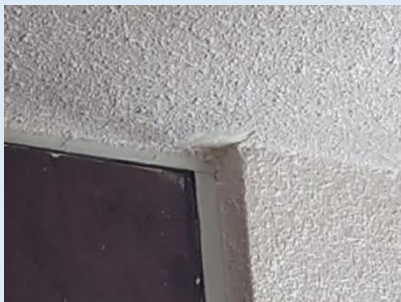
竣工：不明

現在：枠は当初か（推定）

天井

竣工：不明（漆喰か）

現在：吹付けタイル ※下に当初の仕上がりが残る可能性あり
(塗装剥がし試験結果より)



建具

竣工：不明

現在：アルミサッシ

壁

竣工：漆喰（ベージュ）か

現在：吹付タイル ※下に当初の仕
上がりが残る可能性あり

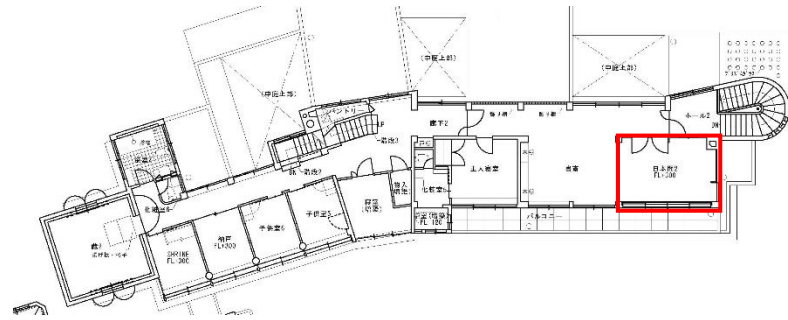
床

竣工：不明

現在：当初か（推定）



■2階 日本間2



○設計意図

【レーモンドが考える日本間】

日本人は旧来の習慣に執着し、今も畳の上に坐るのを好む。畳は単純であり、日本の部屋にあって、無類に詩情がある。西洋の様式と、調和よくつなぐのは難しかったのにも拘わらず、われわれはこのような部屋を日本人のために保護した。また、日本の女性は、今も常時着物を着る。そのため、着物、帯をしまうたんすを置く特別な部屋と、着物をたたむのに必要な、畳の部屋がなければならない。子供達にも、畳のある部屋を都合つけた。畳は、踏めば足ざわりがよく、幾人も練ることができる。

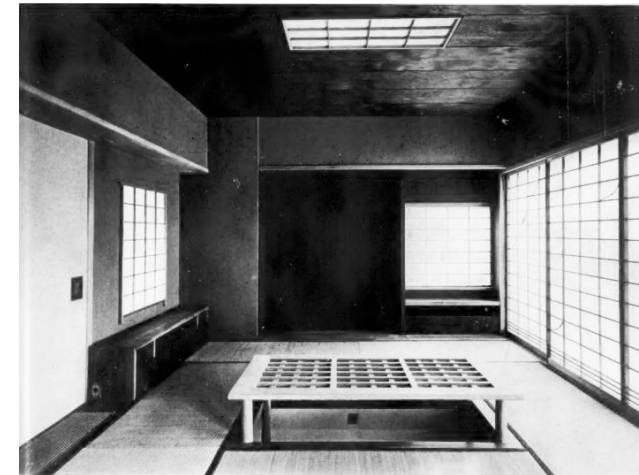
(「私と日本建築」より)

【旧赤星鉄馬邸における日本間の考え方】

この三つ（注：赤星鉄馬邸、川崎守之助邸、福井菊三郎邸）の場合、デザインの問題点はいずれも本人の二重生活に必要な、入念な配置計画を作り上げることであった。客と、家族と、使用人のための分かれた玄関。その家に親しくない人を入れるための、異なった種類の応接間。管理人ためには場所や、その事務室など。和洋両設備の厨房。伝統的日本間と同様に、畳のある様式の部屋など。

(レーモンド自伝より)

竣工直後

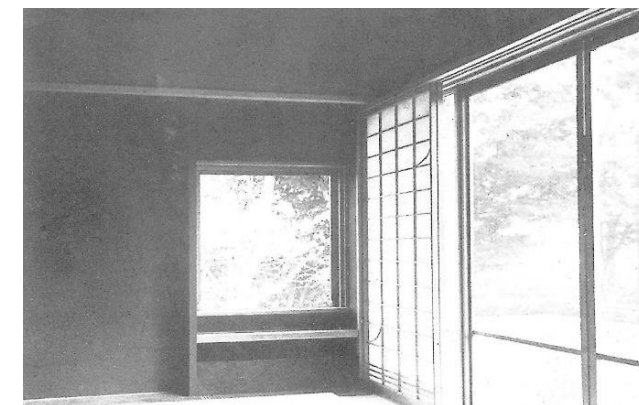


(Architectural record より)

現在



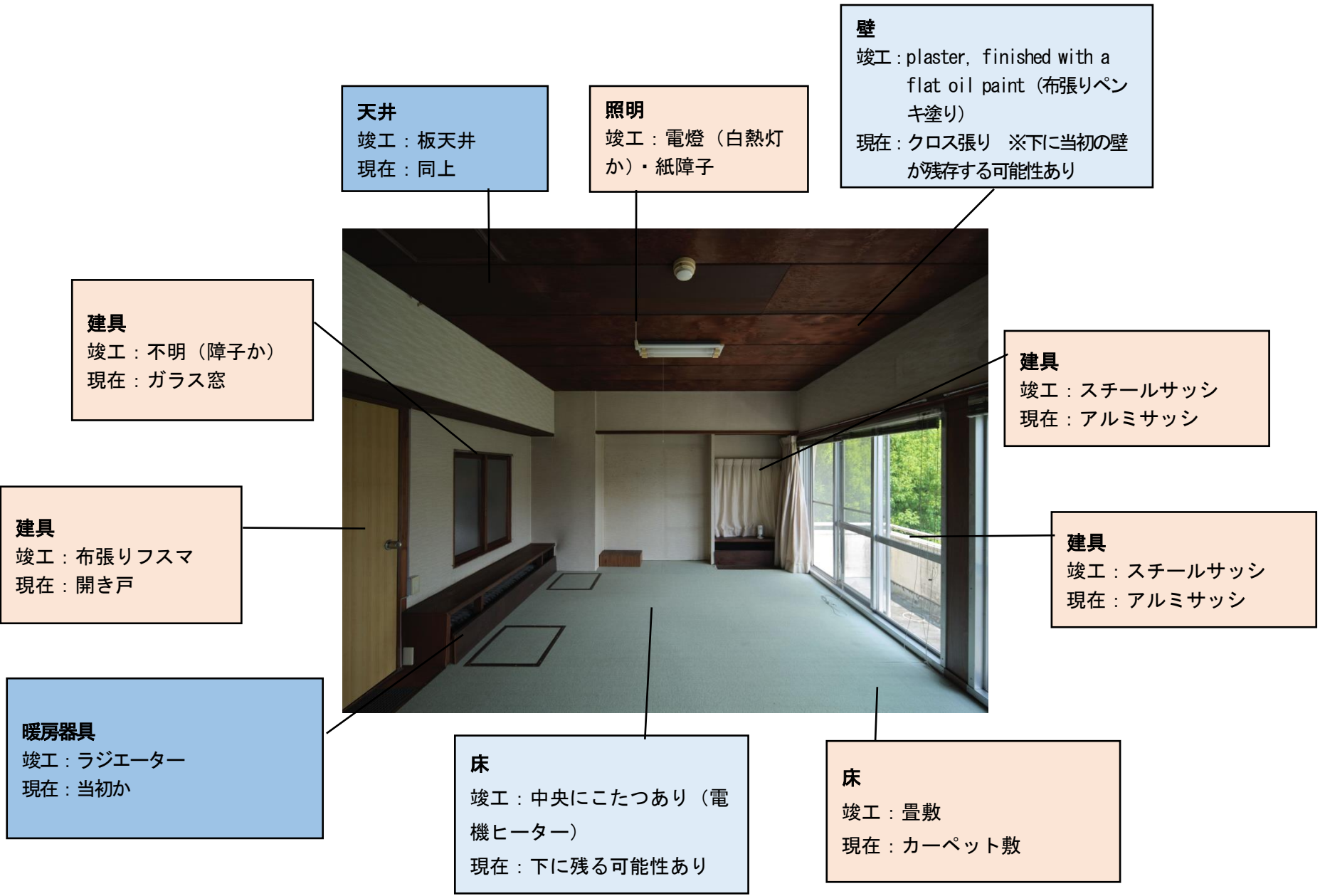
(Architectural record より)



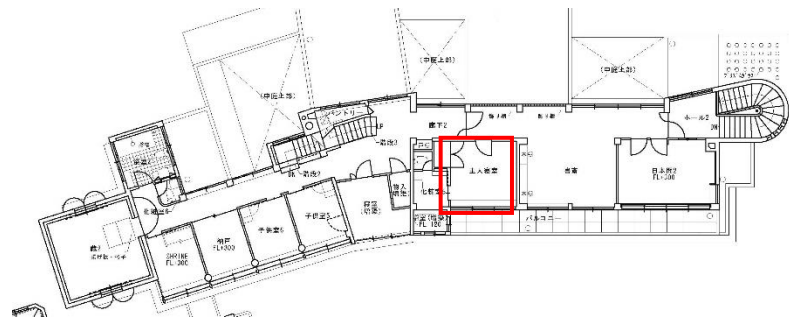
(詳細図譜より)

当初材残存 当初材残存の可能性あり 改変あり 調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況



■2階 主人寝室



○設計意図

【旧赤星鉄馬邸の仕様】

右手は廊下であり同時に室内でもある。書棚の外壁にデッキ硝子
(新建築より)

○暮らしの様子

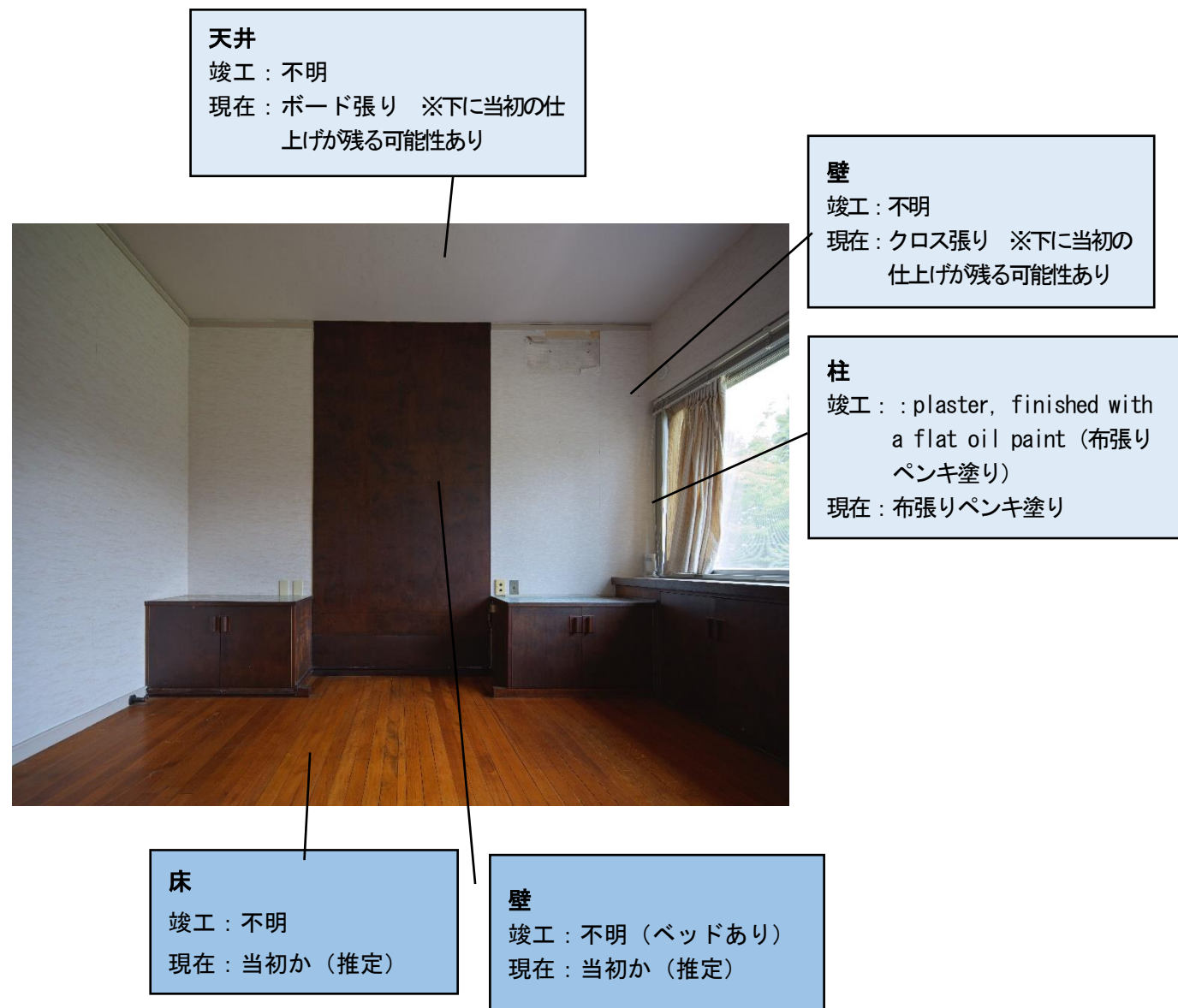
【赤星家時代】

二階に於ても、この家では主人が家族のものとは離れて生活すると云ふ従来からの習慣があるので、この屈曲部から東の方にそれらの諸室（家族の私室やサービス部分）がまとめられているのである。
(新建築より)

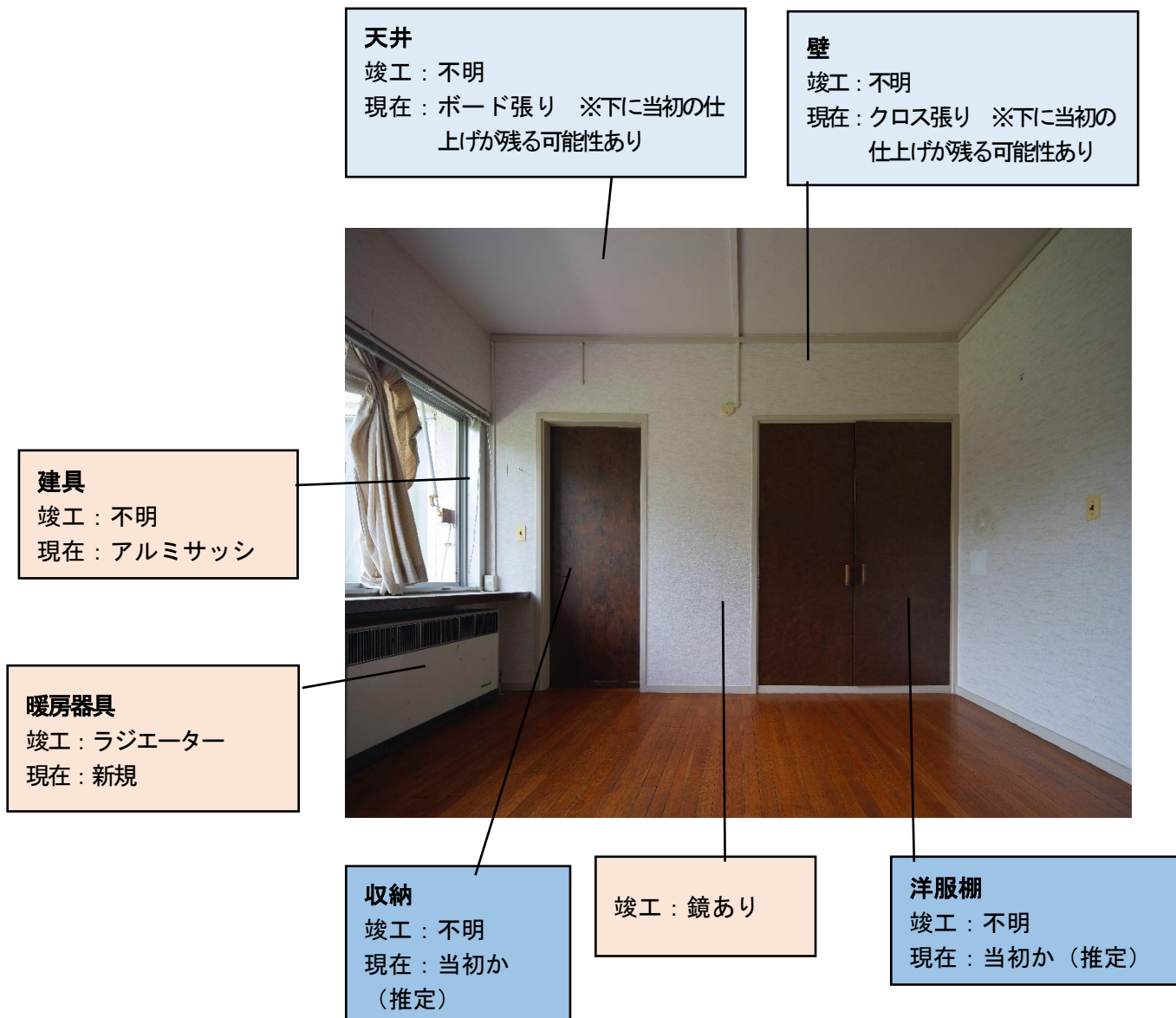
おそらく、鉄馬はよく2階にいたのだと思う。食事が済んだら2階へ行っていたのだと思われる。2階は別世界だった。
(赤星鉄馬孫へのヒアリングより)

当初材残存 当初材残存の可能性あり 改変あり 調査中・不明

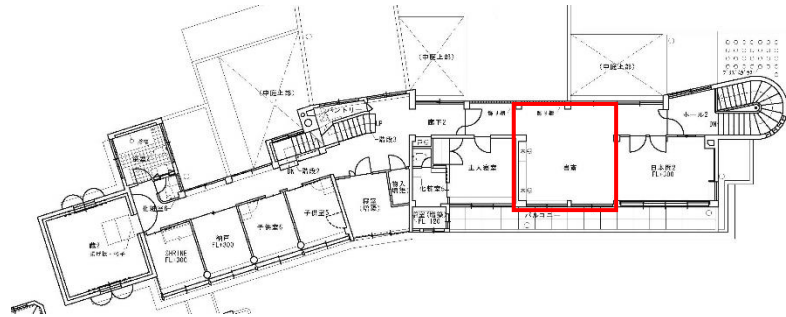
各部分・部位の改変・残存状況



各部分・部位の改変・残存状況



■2階 書斎



○設計意図

【旧赤星鉄馬邸の仕様】

The study. In the corridor at the right are glass cases, illuminated by small openings of molded glass, where rare fish - a hobby - are displayed.

(訳) 書斎。右側の廊下には、成形ガラスの小さな開口部から光が差し込むガラスケースがあり、趣味である珍しい魚が展示されている。

(Architectural record より)

右手は廊下であり同時に室内でもある。書棚の外壁にデッキ硝子
(新建築より)

○暮らしの様子

【赤星家時代】

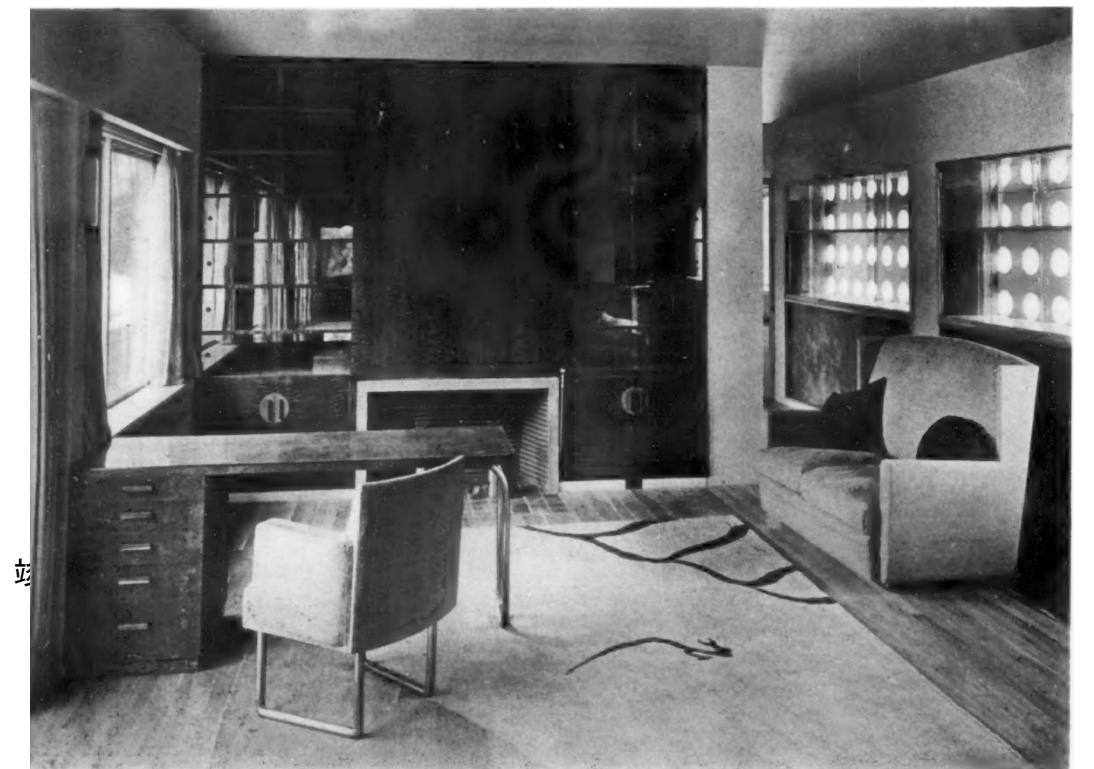
二階に於ても、この家では主人が家族のものとは離れて生活すると云ふ従来からの習慣があるので、この屈曲部から東の方にそれらの諸室（家族の私室やサービス部分）がまとめられているのである。

(新建築より)

大人になってから思い返すと、廊下のケース内のガラス窓は明り取りだと思う。なければ書斎は暗かったはず。

(赤星鉄馬孫へのヒアリングより)

竣工直後



(Architectural record より)

現在



当初材残存 当初材残存の可能性あり 改変あり 調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況

壁

竣工：プラスター布張りペンキ仕上げ
現在：クロス張り ※下に当初の壁が残存する可能性あり

照明

竣工：不明
現在：新規

天井

竣工：プラスター布張りペンキ仕上げ
現在：当初か（推定）

建具

竣工：不明
現在：アルミサッシ

暖房器具

竣工：ラジエーター
現在：新規

床

竣工：檜材床板・杉材
荒床・木下地
現在：当初か（推定）

暖炉

竣工：不明
現在：当初か（推定）

暖炉前床

竣工：石
現在：当初か（推定）



各部分・部位の改変・残存状況

ガラス（棚の中）

竣工：プリズムガラス
現在：当初か（推定）

壁（棚の中）

竣工：コンクリートラッカー仕上げ
現在：当初か（推定）

壁

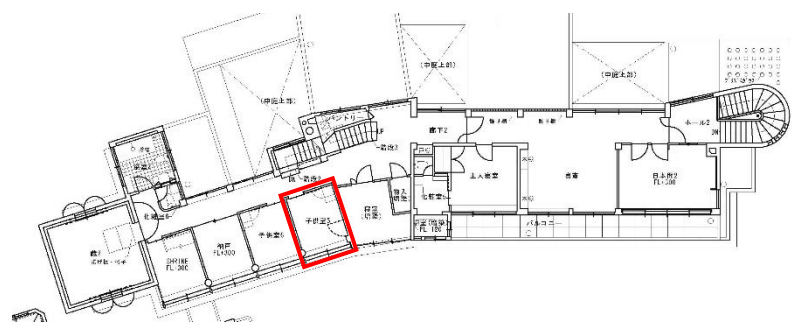
竣工：：plaster, finished with a flat oil paint（布張りペンキ塗り）
現在：布張りペンキ塗り

棚

竣工：引き違いガラス
現在：当初か（推定）



■2階 子供室5



当初材残存

当初材残存の可能性あり

改変あり

調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況

壁
竣工：不明
現在：クロス張り ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

照明
竣工：不明
現在：新規

天井
竣工：ボード張り
現在：同上・ペンキ仕上げ ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

壁
竣工：不明
現在：クロス張り ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

照明
竣工：不明
現在：当初か

柱
竣工：布張りラッカー仕上げ
現在：ペンキ塗り ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

建具
竣工：不明
現在：アルミサッシ

棚
竣工：不明
現在：当初か（推定）

暖房器具
竣工：ラジエーター
現在：当初か（推定）

床
竣工：不明
現在：塩ビシート ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

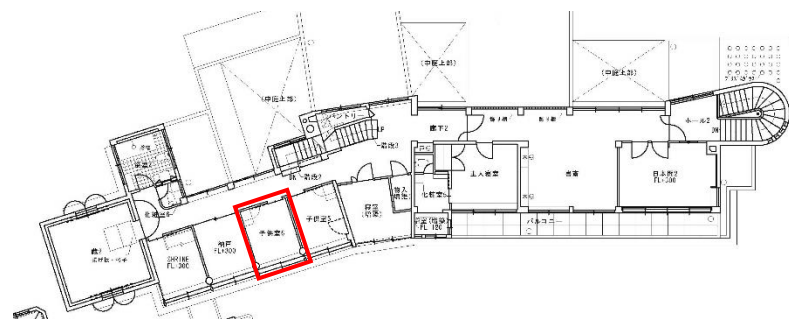
各部分・部位の改変・残存状況

建具
竣工：不明
現在：引手は当初か（推定）

棚
竣工：不明
現在：当初か（推定）

棚
竣工：不明
現在：当初か（推定）

■2階 子供室6



当初材残存

当初材残存の可能性あり

改変あり

調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況

壁
竣工：不明
現在：クロス張り ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

天井
竣工：ボード張り
現在：同上・ペンキ仕上げ ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

壁
竣工：不明
現在：クロス張り ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

柱
竣工：布張りラッカー仕上げ
現在：ペンキ塗り ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

建具
竣工：不明
現在：アルミサッシ

棚
竣工：不明
現在：当初か（推定）

暖房器具
竣工：ラジエーター
現在：新規

床
竣工：不明
現在：塩ビシート ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

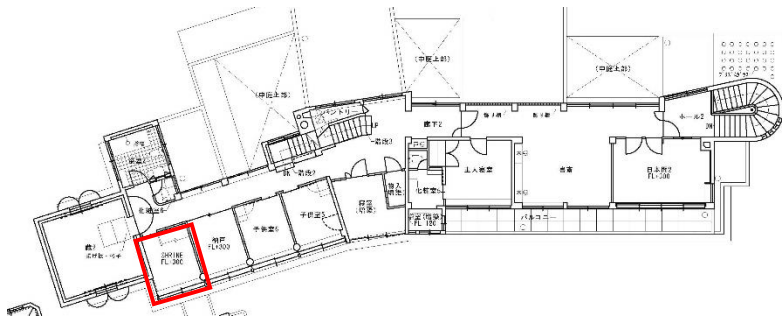
各部分・部位の改変・残存状況

照明
竣工：不明
現在：当初か（推定）

棚
竣工：不明
現在：当初か（推定）

棚
竣工：不明
現在：当初か（推定）

■2階 SHRINE



- 当初材残存
- 当初材残存の可能性あり
- 改変あり
- 調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況

天井

竣工：不明

現在：ボード張り・当初か（推定）

壁

竣工：不明

現在：クロス張り ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

壁

竣工：不明

現在：クロス張り ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

柱

竣工：不明

現在：ペンキ塗り ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

建具

竣工：不明

現在：アルミサッシ

床

竣工：不明

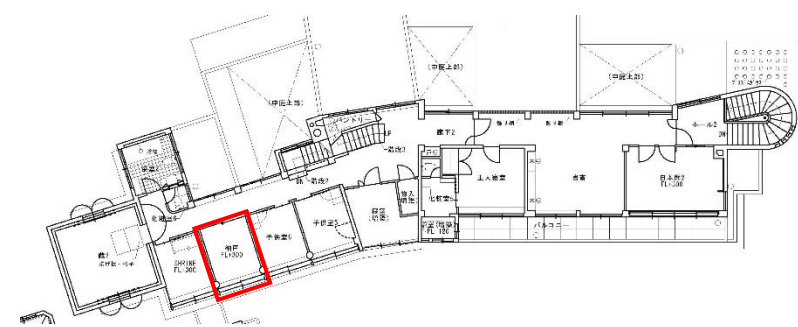
現在：塩ビシート ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

床

竣工：不明

現在：コンクリートラッカー仕上げ・当初か（推定）

■2階 納戸



当初材残存

当初材残存の可能性あり

改変あり

調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況

壁
竣工：不明
現在：クロス張り ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

照明
竣工：不明
現在：新規

天井
竣工：不明
現在：新規ボード張り ※下に当初の仕上げが残る可能性あり



壁
竣工：不明
現在：クロス張り ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

建具
竣工：不明
現在：アルミサッシ

床
竣工：不明
現在：塩ビシート ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

柱
竣工：不明
現在：ペンキ塗り ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

各部分・部位の改変・残存状況

建具
竣工：不明
現在：引手は当初か（推定）



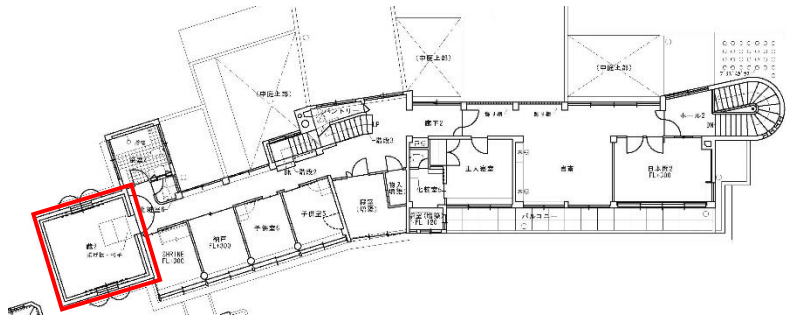
■2階 蔵2

当初材残存

当初材残存の可能性あり

改変あり

調査中・不明



○設計意図

【レーモンドが考える日本の蔵】

また、蔵がある。これは倉庫を高尙にしたもので、家宝等をしまふ。たとえば、掛軸、珍しい陶磁器、伝来の刀剣類等。蔵は二重構造。一つが、他のもう一つの蔵を覆う。外部は不燃。湿気と防虫の設備が施されている。内部は木造。扉は三重。鉄扉、ガラス戸、防虫網戸がつく。内部構造は図書館等に似ている。木製の棚には、緑の紐でしばった、白木の箱が並び、その中には綿と絹で包んだ家宝が入れてある。日本人はこの方法で、何世紀もの間、絹や紙に描かれた絵、立派な磁器などを保存して来た。各箱には番号がつけられ、整理される。執事や、家の女主人はその鍵と整理帳を預かる。その人達は、蔵の紅葉のためには費用を惜しまない。

(「私と日本建築」)

各部分・部位の改変・残存状況

天井

竣工：セロテックス
現在：同上

壁

竣工：不明（板張りか）
現在：板張り

建具

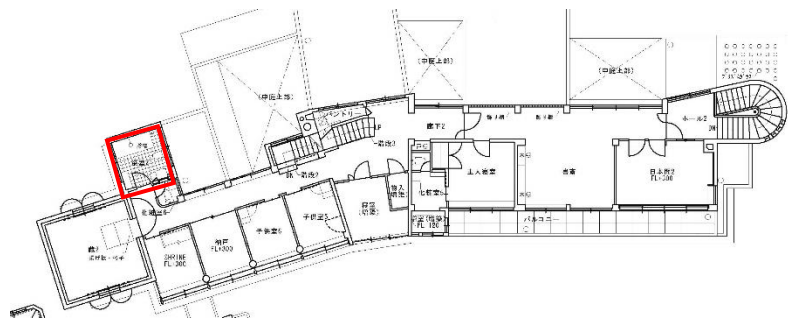
竣工：防火扉・網戸・ガラス戸・鉄格子
現在：防火扉なし

床

竣工：不明
現在：カーペット敷 ※下に当初の仕上げが残る可能性あり



■2階 浴室



当初材残存



当初材残存の可能性あり



改変あり



調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況

天井
竣工：不明
現在：ペンキ塗り

壁
竣工：不明
現在：新規タイル

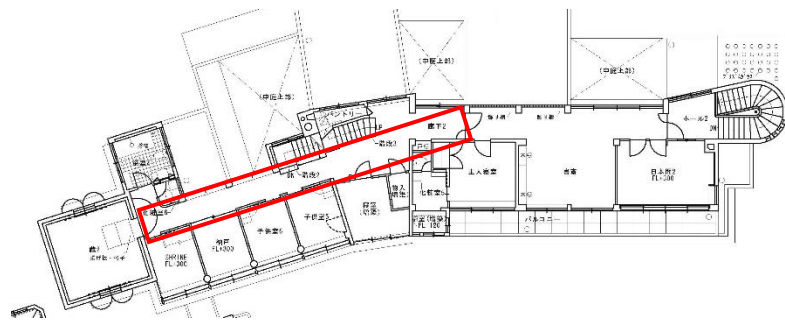
浴槽
竣工：不明
現在：新規

床
竣工：不明（タイル張り？）
現在：新規タイル張りか

建具
竣工：不明
現在：新規

便器
竣工：不明
現在：新規

■2階 廊下2



当初材残存



当初材残存の可能性あり



改変あり



調査中・不明

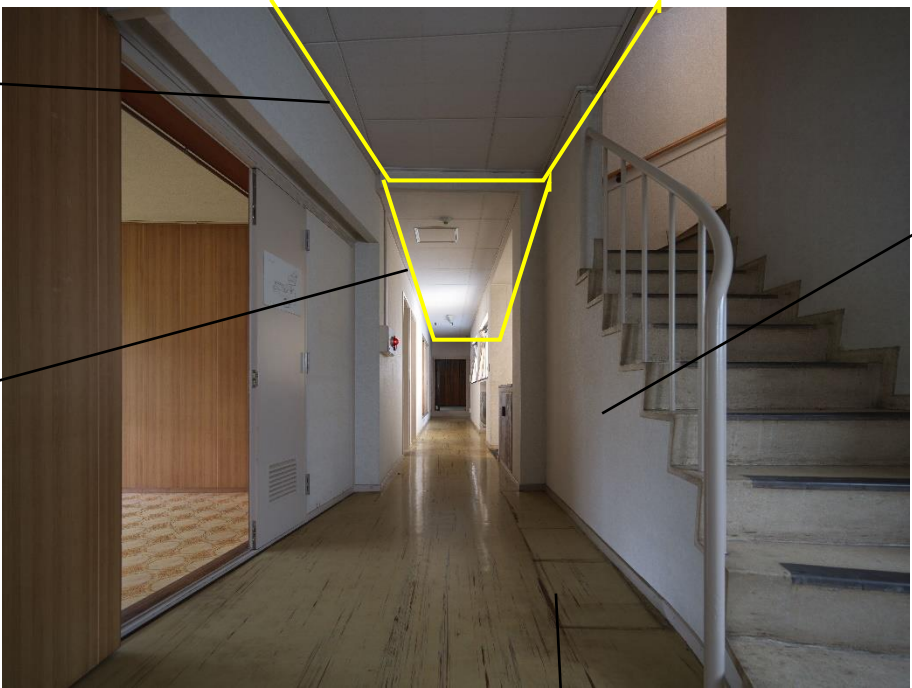
各部分・部位の改変・残存状況

天井（手前）

竣工：1階廊下・2階子供室と同様とする
とボード張りか
現在：当初か（推定）

天井（奥）

竣工：1階廊下・2階子供室と同様とする
とボード張りか
現在：新規ボード・ボードの内側に当初の天井板
が残る



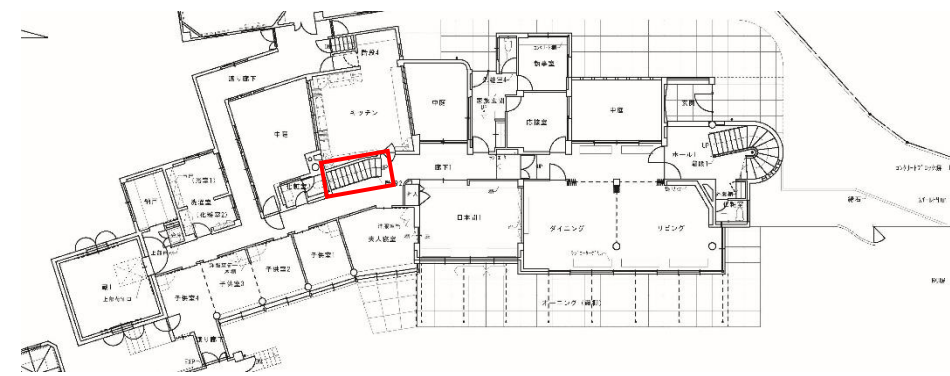
壁

竣工：不明
現在：ペンキ塗り ※下に当
初の壁が残存の可能性
あり

床

竣工：檜材床板・杉材荒床・木下地
現在：塩ビシート ※下に当初の仕上げが残る可能性あり

■階段 3



当初材残存



当初材残存の可能性あり



改変あり



調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況

手摺

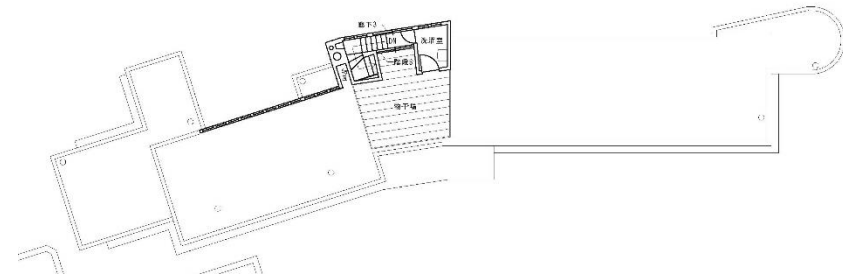
竣工：パイプ手摺
現在：当初



階段

竣工：人造石研ぎ出し
ゴム製滑り止め
現在：当初

■1階 屋上・物干場



○設計意図

【旧赤星鉄馬邸の仕様】

北側壁の穴には硝子が嵌め込まれていて北風を避ける様にされている。中央に池。
 (「新建築」)

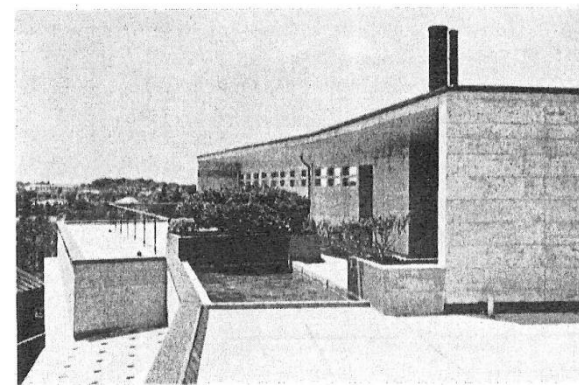


(ペンシルベニア大学提供写真より)

竣工直後



(ペンシルベニア大学提供写真より)



(ペンシルベニア大学提供写真より)



(「新建築」より)

現在




各部分・部位の改変・残存状況

竣工：煙突あり
現在：煙突撤去

タンク
竣工：なし
現在：新規

物干し場
竣工：なし
現在：新規

竣工：花壇あり
現在：花壇撤去



壁面
竣工：ペントハウス
現在：屋根撤去、開口部変更あり


床
竣工：防水セメントモルタル
現在：新規防水仕上げ・下は当初か
（将来的に、防水仕上げは最新の技術を採用するのが適切と考えられる）

各部分・部位の改変・残存状況

壁面
竣工：ペントハウス
現在：屋根撤去、開口部変更あり

物干し場
竣工：なし
現在：新規

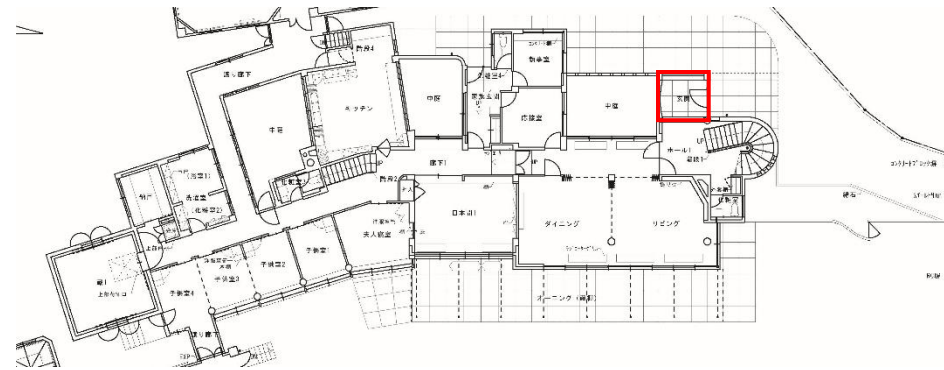
タンク
竣工：なし
現在：新規



竣工：プール（池）あり・底モザイクタイル
現在：プール撤去

床
竣工：防水セメントモルタル
現在：新規防水仕上げ・下は当初か
（将来的に、防水仕上げは最新の技術を採用するのが適切と考えられる）

■外観



○設計意図

【旧赤星鉄馬邸の仕様】

(南側)

Bright awnings and copper copings add to the colorfulness of this house. The concrete facades are a warm gray, with the overhangs painted on undersurfaces - yellow on the first story and light blue on the second. Walls behind shrubbery are a light green and the window sash red.

(訳) 明るい日よけと銅の庇がこの家に色彩を加えている。コンクリートのファサードは暖色系のグレーで、張り出し部分の下面は 1 階が黄色、2 階がライトブルーに塗装されている。植え込みの後ろの壁は緑色で、窓枠は赤色。

(Architectural record より)

窓上の庇は厚約 1 寸 5 分、下端コバルト色、パラペット上は銅板の雨押へ、日除けは白とオリーブ、支柱は黒色。

(「新建築」より)

(玄関前)

This concrete porte-cochere at the main entrance is cantilevered from two sides, meeting diagonally and resulting in a light construction. The under side is painted a light yellow.

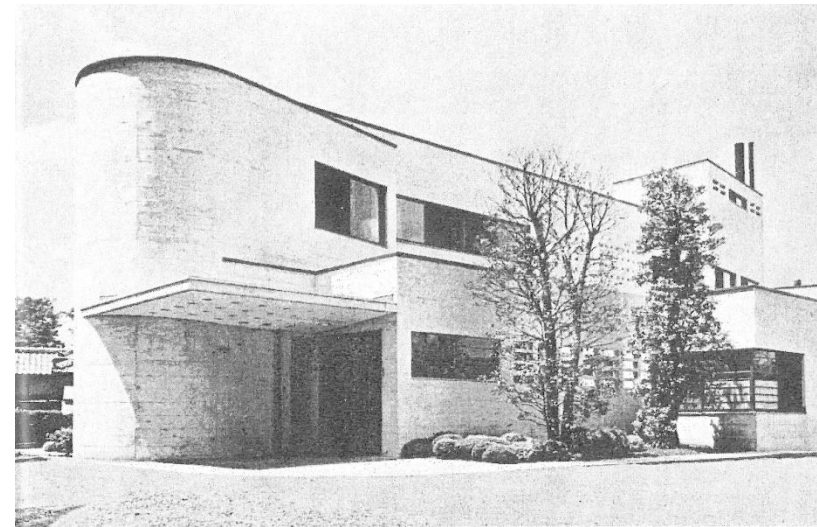
(訳) 表玄関にあるこのコンクリートの車寄せは、2 つの側から片持ちで突き出ており、対角線に出ているため、軽い構造になっている。下側は明るい黄色に塗られている。

(Architectural record より)

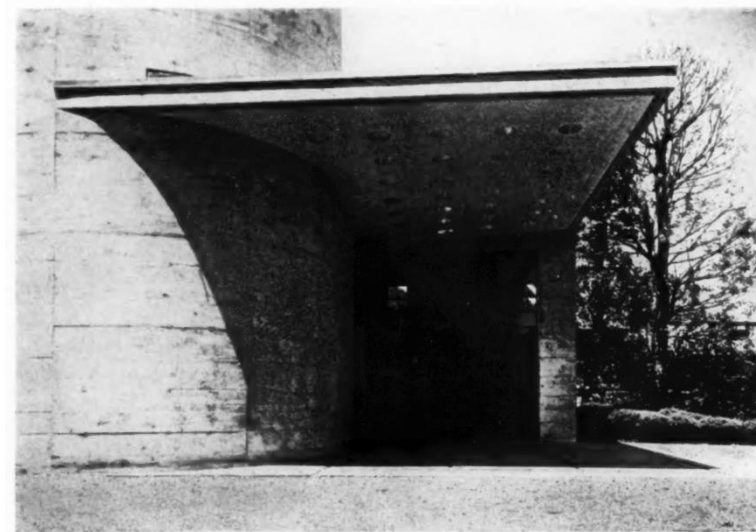
両側サッシスチール、褐色、戸は木製、黒色ラッカー仕上。庇裏は白色、デッキ硝子の穴は黄色、左手の圓い部分は階段室

(「新建築」より)

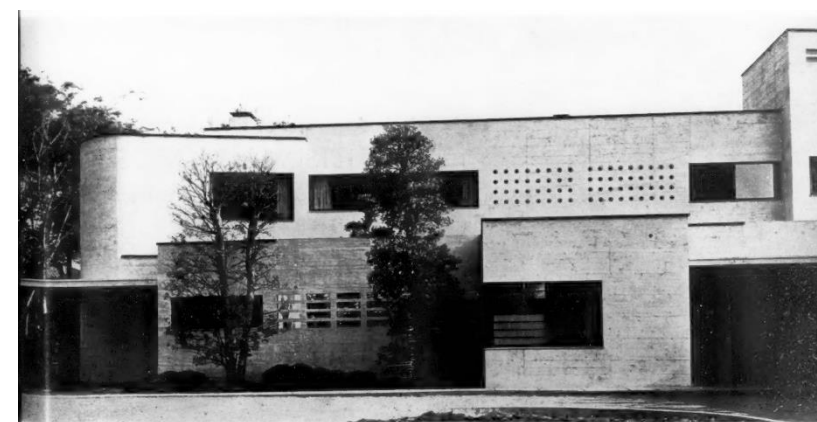
竣工直後



北側（新建築より）



玄関前 (Architectural record より)

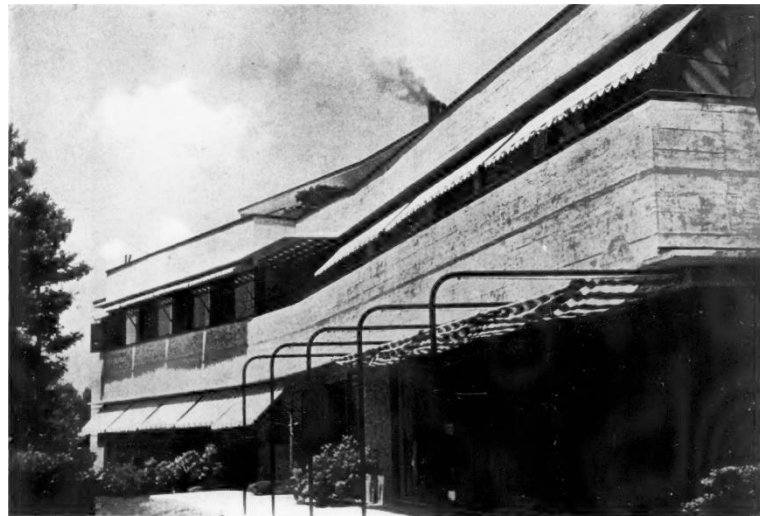


北側（ペンシルベニア大学提供写真より）

現在



竣工直後



南側 (Architectural record より)

現在



竣工直後



東側 (ペンシルベニア大学提供写真より)

現在



南側 (Architectural record より)



蔵 (ペンシルベニア大学提供写真より)



南側 (ペンシルベニア大学提供写真より)

当初材残存

当初材残存の可能性あり

改変あり

調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況



外壁

竣工：コンクリート打ち放し
現在：吹付タイル ※下に当初が残る

庇裏

竣工：庇裏面は白、ガラスの穴は黄色

現在：吹き付けタイル ※下に当初仕上げが残る可能性もあるが、黄色系統の塗料は残りにくい。

玄関前舗装

竣工：割石舗装か
現在：当初か（推定）

玄関扉

竣工：木製、黒色ラッカー仕上げ
現在：当初か（推定）

当初材残存

当初材残存の可能性あり

改変あり

調査中・不明

各部分・部位の改変・残存状況

雨押え

竣工：銅板
現在：当初か（推定）

2階庇

竣工：裏側は青系統
現在：ペンキ塗り ※下に当初仕上げ（青系統）がある程度残る可能性あり

1階庇

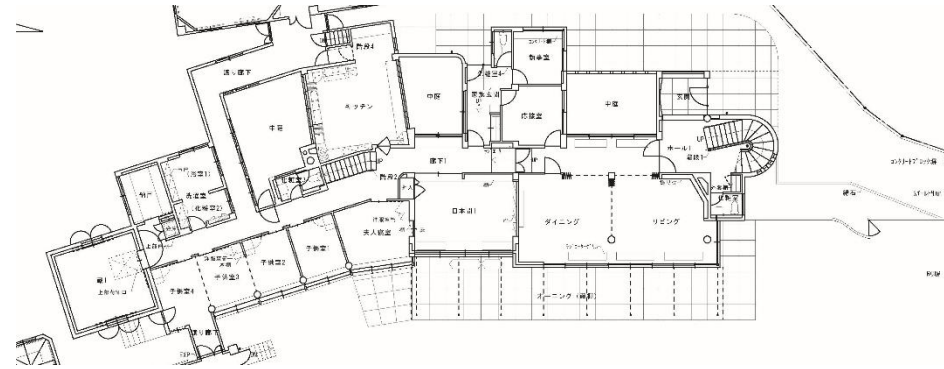
竣工：裏側は黄色系統
現在：ペンキ塗り ※下に当初仕上げ（黄色系統）がある程度残る可能性があるが、黄色系統の塗料は残りにくい。



藤棚

竣工：オーニング（日除けオリーブ色と白、支柱黒）
※竣工後早い時期に藤棚に変更（古写真および赤星鉄馬孫へのヒアリングより）
現在：藤棚

■門



○設計意図

【旧赤星鉄馬邸の仕様】

(門などもレーモンドがデザインしたのかという質問に対して)

いや、これはレーモンドの奥さんです。奥さんがスケッチしたものを私が日本の太筆で原寸図を描いた覚えがあります。

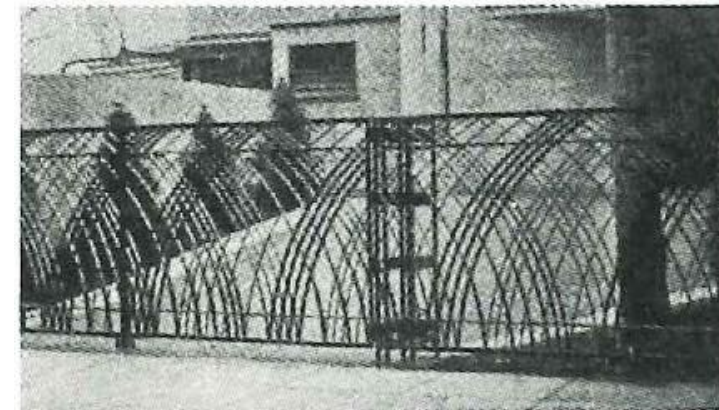
(SD より, 杉山雅則氏)

竣工直後



(Crafting Modernity, Crossing Cultures
The Pennsylvania Gazette より)

現在



(SD より)